昭和62年度

講　義　要　項

早稲田大学大学暦
講　義　内　容
クラス担任者一覧
教　員　一　覧
建物・号館案内
構内案内図

1987

早稲田大学人間科学部

昭和62年度　早稲田大学大学暦

項目			期日	
入学式		学部	昭和62年 4月1日（水）	
		大学院専攻科	4月2日（木）	
前期	授業開始	学部	4月2日（木）	十六週
		大学院専攻科	4月3日（金）	
	授業終了		7月18日（土）	
	夏季休業		自 7月20日（月） 至 9月14日（月）	
後期	授業開始		9月16日（水）	十七週
	創立記念日		10月21日（水）	
	冬季休業		自 12月17日（木） 至 昭和63年 1月7日（木）	
	授業終了		2月6日（土）	
春季休業			自 2月8日（月） 至 3月31日（木）	
学部卒業式，専攻科修了式および大学院学位授与式			3月25日（金）	
授業期間			33週	

1．教養演習の組数増について（Ｐ５およびＰ８）

教養演習Ａ（生体運動の生理学）４単位　　木　村　一　郎

我々“動物”の名は文字通り“動く生物”の意味に由来するが、広い意味での“動く”ことはすべての生物に共通した属性のひとつであり、生物が“動く”ことはそれが生きていることの証である。生体運動の基底には細胞運動がある。それにはアメーバ運動、線毛、鞭毛運動、細胞分裂（核分裂・細胞質分裂）、原形質流動など多岐にわたるものが知られている。就中、筋肉運動は日常我々が眼にすることができる最も顕著かつダイナミックな生体運動として、古くから関心を集め、研究の歴史も古く多くの知見が蓄積されている。

本演習では筋肉運動を中心に据え生体運動の生物学についてその具体的研究例を紹介しながら概観する。

文献講読等での受講生の積極的な参加を期待している。

教養演習Ｂ（自己の発見）４単位　　菅　野　　純

カウンセリングは他者と向かい合う行為であると同時に、自己と向かい合う行為でもある。「自己を知る」という事は、人間誰にとっても永遠の課題ではないだろうか。

この演習では、文献及び、フィールドワークやエンカウンターグループ、心理テストなど体験を媒介として、自己の考察を行う。

「風土の中の自己」　「家族の中の自己」　「生育史の中の自己」
「自己と身体」　「自己と他者」　「自己表現」

など、いくつかのテーマにそって、それぞれが「自己とは何か」を発見する旅を行っていきたい。

参考書はそのつど紹介する。

2．クラス担任者の増員について（Ｐ７９）

Ａ8　木　村　一　郎　　Ｂ7　菅　野　　純

目　次

講　義　内　容

一般教育科目　人文科学系 …… 1
　　社会科学系 …… 5
　　自然科学系 …… 8
保健体育科目 …… 13
基礎教育科目 …… 15
専門教育科目（各学科共通　必修） …… 19
専門教育科目　人間基礎科学科 …… 21
　　人間健康科学科 …… 33
　　スポーツ科学科 …… 49
専門教育科目（各学科共通　選択） …… 73
クラス担任者一覧 …… 79
教員一覧 …… 81
建物・号館案内 …… 87
構内案内図 …… 88

一　般　教　育　科　目

※開講年度の表示のない学科目は，すべて本年度（昭和62年度）開講科目

（人　文　科　学　系）

教　　育　　学　4単位　　鈴　木　慎　一

教育の意味を考えるときには幾つかの視点から多元的に教育と呼ばれる事象を解析してみる必要がある。

人間が人間として生きる生き方はさまざまだが，今，人間が人間の生き方を創り出してゆく営みを，仮りに文化と名付けることにして，文化の創造と伝達という観点から『教育』を解析することを，この講義の一つの柱としたい。

同時に，人間は動物の種の一つとして，ヒトと名付けられた種の保存について，常に，配慮しなければならない。そのことも文化の一つの形態になっているが，その基礎となる動物としてのヒトの諸事実に即して，『教育』の意味を検討してみよう。講義の第二の柱がこれである。

二つの柱を座標軸とする各次元に，それぞれ独自に定位される教育の諸相を横縦に取り上げる。

〔参考書〕：ワロン『認識過程の心理学』（大月書店）
ウィルソン『人間―約束するサル』（岩波現代選書）

宗　　教　　学（昭和63年度開講科目）4単位　　小　山　宙　丸

人間にとって重要な，興味ある現象の一つである宗教を，学的研究の対象として考察する。まず宗教についてのさまざまな考え方を紹介しながら，宗教とは何であるかを調べてみる。次に人間生活における宗教のいろいろな役割を観察しながら，人間性における宗教の位置を論ずる。さらに代表的な諸宗教の歴史と特色とをみてゆきながら，宗教問題についての展望を与えることに努めたい。

哲　　学　4単位　　速　川　治　郎

本年度はヘルムート・プレスナーの『哲学的人間学』を通して哲学一般を述べてみたい。彼は「人間が何であるか」を哲学，生物学の面からいろいろ考えているが，要するに

哲学と科学との接点を求めている。このこと自体哲学の問題であり，改めて「哲学とは何か」を考えさせてくれる。人間科学の基盤として哲学は重要である。そのような哲学を分りやすく述べるつもりである。

〔使用教科書〕

H・プレスナー，谷口茂訳『人間の条件を求めて』(思索社)

〔副教科書〕

H・グロックナー，川原栄峰監訳『哲学入門』(理想社)

〔参考書〕

H・グロックナー，樫山欽四郎監修『ヨーロッパの哲学』上，中，下(早稲田大学出版部)

倫　理　学　4単位　　富永　厚

科学はものごとがどのようにして (how) そうなっているかを問うことはできても，何のために (why) を問題にすることはしないと言われる。そもそも人間が人びとの間で生れ，死ぬこと，生命，自然，社会の意味など解っているつもりで，かならずしも明らかでないことが多い。この講義では，そうした世界と人間の根本にかかわる問題を，主としてフランスでの論議を軸にして考えていくことにしたい。

〔教科書〕：富永　厚『フランスの社会倫理思想Ⅰ』(早稲田大学出版部)

文　　学　4単位　　興津　要

近世から近代にかけての日本の庶民の生き方を文学によって検討する。

一　父子の在り方

一　夫婦の在り方

一　男女の在り方

一　主従の在り方

一　武士と庶民の在り方

などを探る。

教科書は，興津　要，小池正胤編『西鶴作品選』(桜楓社刊) とする。

日本文化史　4単位　　谷川章雄

日本人にとって日本文化を知ることは自己を認識する上で不可欠な作業である。日本の文化は決して単一，不変なものではなく，長い歴史のなかで様々な要素が複雑にからみあって生成され，またそれぞれの地域文化は多くの変差を含んでいる。本講義ではそうした観点に立って，日本文化史のなかでもとくに民俗宗教を主題としてとりあげることにしたい。具体的には，日本固有の「神道」と日本に土着した「仏教」の交渉の歴史をたどりつつ，それが国家，村，家の次元や地域のなかで実際にどのようなあらわれ方をしてきたか

を考えてみることにする。

すなわち，日本の歴史のなかで日本人のもつ多様な宗教的世界を描くことが本講義のねらいである。

比較文明論 4単位　　吉村作治

文明を考える時必ず問題になるのは文化との関係である。故にまず，文明と文化について検証し，然る後に文明の比較を考えたい。文明の比較と言っても方法論は数あるが，本講座では柱となる文明に「エジプト文明」を選びそれを学習した後に，他の地中海文明との比較研究を行いたい。時代としては，農耕起源前後から紀元前後にかけてを中心に，宗教，芸術，生活の諸様相の比較を行うことによって，文明のパターンを認識し，それが後の世にどのように影響を及ぼしたかについても考察を行う予定である。比較文明学は新しい学問形態であり，確定した方法論が無いが，本講座を通して，いくつかの方法論を試行錯誤しながら独自の方法論を見つけたいと考えている。

映像論 4単位　　岩本憲児

写真が誕生した19世紀前半から，コンピュータ・グラフィックスの現代まで，映像メディアの変遷をながめながら，映像の特質を考えてみたい。写真・映画・テレビ・CG等，映像メディアが私たちにもたらしたものは何か？映像は20世紀の芸術や伝達のあり方をどのように変化させたのか？それは私たちの視点や思考をどのように新しくしたのか？講義の中心になるのは，映像メディアと既成芸術との関係，映画理論史上の主要な論点等であるが，視覚文化や複製文化，コミュニケーションやドキュメンタリー等，社会的な広がりも含めたい。

教科書は使わないが，スライド・フィルム・テープ等，映像資料をできるだけたくさん使う予定。参考書は授業中にそのつど必要なものを挙げる。

教養演習A（比較文化論〈エジプト・ヨーロッパ・日本〉）4単位　吉村作治

昨今生活文化が見直されてきた。「文化」という言葉の概念を規定することは容易ではないが，人類史に於いて人間の手によって為されたもの及びその足跡ということとするならばその範囲は広い。本講座では文化の中でも生活に関係した部分を取り上げ，その地域的，時代的相関関係を探ってみたい。生活といっても多種多様であるが，食文化，服飾文化，を中心として，そこに表現される装飾や形状の根源に着目したい。その他にも音楽や香り，化粧といった生活の中では副次的要素も目を向け，それ等の生活を支えていた社会の仕組み，特に職業も考察に加える予定である。地域はエジプトを中心としたオリエント世界とアジア，ヨーロッパとの関係を中心にしていく。時代的には古代に限定し，古代社会に於ける生活文化を通して，現代が考えられることを目的にする。

教養演習A（文化としてのスポーツ）4単位　　寒川恒夫

スポーツの概念をテーマとした演習をおこなう。スポーツは広狭さまざまに理解されるが，本演習では，「運動競技」を意味の中心に据えながらも，原義の「遊戯」，教育的にとらえられた「身体修練」「体育」，身体に対する保健養生的関心としての「身体養護」，などを包摂する身体文化と同義の最広義に理解し，これら諸概念と諸概念間の関係との把握を外国語文献の講読を通しておこなう。テキストはそのつど指示する。

教養演習A（言語表現と文化）4単位　　三枝幸夫

思想・感情の表現方法は個人によってそれぞれ異なる。まして，相互に文化内容が異なり，言語が異なる異文化間においては表現方法が異なるのは当然のことである。このような問題を日本語と英語という二言語（つまり，二文化）の比較からとらえてみたい。とりあえずはテキストは用いないが，後に英語と日本語の翻訳本を使って演習を行う予定。したがって，ある程度の英語力を必要とする。

手軽に入手できる参考書としては，次のものがある。J. V. ネウストプニー『外国人とのコミュニケーション』／池上嘉彦『記号論への招待』／鈴木孝夫『ことばと文化』（いずれも岩波新書）

教養演習A（ストレス解消とスポーツ）4単位　　上田雅夫

現代はストレスの時代だと言われている。

われわれは，物理的・精神的・肉体的ストレッサーによって常にストレス状態におかれている。適量ストレス状態は人を発展させるが，異常ストレス状態は頭痛・腰痛・高血圧症・胃・十二指腸潰瘍・反応性うつ病・老化の促進・無気力・肥満等を生じさせる。健康で充実感をもって生きるためには，うまくストレスコントロールを行う必要がある。その一つの方法としてスポーツをとりあげて検討したいと思っている。参考資料等は必要に応じて指示する予定である。

教養演習A（ヨーロッパ文学にあらわれる人間像）4単位　　神崎　巌

啓蒙主義以降のヨーロッパ文学，とくにドイツ文学を中心に，代表的な作品をよみながら，現代にいたる時代と社会の推移を考察し，その中に生きるさまざまな人間像を見てみたい。

初年度は，十九世紀のヨーロッパ史を概観したのち，ドイツ文学史の中で，「疾風怒濤時代」といわれるころのゲーテとシラーの作品『若きヴェルテルの悩み』，『群盗』からよみはじめる。

この二作品にかぎらず，テキストには入手しやすい文庫版のある作品をなるべく選びたい。受講にあたって特に予備知識を必要とはしない。

教養演習A（人間と芸術）4単位　　堀田郷弘

「芸術」と呼ばれるものは，私たち人間が「芸術」と意識していたにしろ，していなかったにしろ，人類にとっては，古今東西の区分など時空を超えて常に存在してきました。また「芸術」は，そのためにかけがえのない命を賭けた人々を生ましめた一方，どれほどの名画，名曲にしても，飢餓で死に瀕している人の命を救うことはできません。「芸術」については，考えれば考えるほど不可思議が深まりますが，「芸術」の意義という問題，つまり「芸術」は私たち人間にとって一体どんな意味をもっているのかを，考えて行きたい。

（テキスト，参考書など未定）

教養演習A（行動的セルフコントロール）4単位　　坂野雄二

人が適応した生活を送るためには，身体の健康問題もさることながら，「心の健康」の問題も極めて重要である。また，自己の行動を自ら管理・コントロールすることも不可欠である。

本演習では，適応生活に必要なさまざまなセルフコントロール法について，「心の健康」という観点からその心理学的な原理を探り，日常生活への応用について考える。また，ストレスに対処する方法についても考える。具体的には，自律訓練法，喫煙行動のセルフコントロール，ウェイトコントロール，各種行動のセルフモニタリング法などについて，その効用と限界を心理学的に考察する。

テキストブック，参考書等は追って連絡する。

（社会科学系）

法　　学　4単位　　奥島孝康

イェーリンクは，その著『権利のための闘争』（岩波文庫）において，「法の目的は平和であり，それに達する手段は闘争である。」という有名な一句を記している。彼が，この本で真に主張したかったのは，権利と人格とは不可分の関係にあり，権利のために闘うということは自分自身の存在を主張することではなかったかと思われる。

本学部は，人間の尊厳の回復を学部設置の目的の一つとしている。本講義においても，人間というものを社会との関係で法がいかにとらえているか，法は人間をいかなるものと設定しているか，日常生活の中からケースを選びながら一緒に考えていきたい。そのような法というものの考え方を学びつつ，法とは何かを考えてみたい。

社会変動論　4単位　　嵯峨座　晴夫

社会変動とは，一般的にいって，社会の活動水準あるいは社会構造が変化することを意味している。このような変化を対象として，その変動パターン，原因，帰結などについて，社会学を中心として関連諸科学においていろいろと研究が進められてきた。例えば，社会進化論，発展段階論，近代化論などがあげられる。ここでは，まず第一に，これらの社会変動の基礎理論について概説する。

第二に，現代の主要潮流の一つである近代化について，日本社会を例にとりながら具体的な考察を試みる。さらに，この近代化がいわゆる第三世界にも波及する可能性があるかどうかについても検討する。

第三に，望ましい社会変動を意図的に引きおこすことを目的とした社会計画あるいは社会開発の意義と問題点についても論述する。

ヨーロッパ文化概論　4単位　　蔵持　不三也

貿易や文化面での国際協調が声高に叫ばれている今日，我が国の主要なパートナーであるヨーロッパに対する理解はなお不十分なものにとどまっている。たとえば，肉食文化や合理主義といった皮相的かつ伝統的な見方である。本講ではヨーロッパ人および彼らの文化のルーツを先史考古学的観点から紹介し，さらにその今日的様相を文化人類学・民俗学的観点から追求して，旧来のヨーロッパ観を再検討したい。なお，講義ではできる限り多くのスライドやビデオを用いて受講者の理解に供したいと考えている。教科書あり。

教　育　法（昭和63年度開講科目）4単位　　今橋盛勝

「教育と人権と法」のテーマで行う。学校教育は子ども，生徒が「人間として扱われ，人間になる」ことを保障するために存在するという基本的観点から，いじめ・体罰・内申書・校則・学校事故問題（スポーツ少年団の事故・体罰）等を教育法的にどうとらえるかを，調査分析・教育裁判を通じて明らかにしたい。親の教育権・責任，学校参加権に関するアメリカの教育法・判例にもふれる。「教育と法」の関連を教育法社会学的に解明し，教師・学校の役割を考えていきたい。

〔教科書〕：今橋盛勝著『教育法と法社会学』（三省堂）

教養演習B（社会体育と法学）4単位　　濱野吉生

この演習は，地域社会において，体育・スポーツが法とかかわりを持つ場面を対象とし，それにどのように対処するかを，法学的思考方法の養成ということを考えながら進めていく。

したがって，授業の前半は，問題全般を理解するための基礎理論について説明し，後半は，討議を交えつつ，適宜，具体的な事例を取り上げていきたいと考えている。

参考書等については，授業中に指示する。

教養演習B（スポーツと社会）4単位　　宮内孝知

「スポーツとは何か」という問題は，スポーツの何に関心を持つかによって，さまざまに答えることができるものである。

ところで，現代の社会には「スポーツ」という言葉が氾濫している。「競技スポーツ」「エリート・スポーツ」「みんなのスポーツ」等々きりがない。こうしたスポーツに関連する言葉の氾濫は，スポーツが人びとの大きな関心事であることと同時に，その関心が多様であることを示すものである。

本演習は，「スポーツとは何か」という大きなテーマに，スポーツの社会的側面，すなわちスポーツが社会とどのように関係しているか，という視点からアプローチしようとするものである。

〔参考書〕：『スポーツと社会』（NHK），『スポーツと社会』（不昧堂），『現代社会とスポーツ』（不昧堂），その他。

教養演習B（日本古代の神話と国家）4単位　　谷川章雄

一般に神話とはこの世のはじまりに起きた宇宙，人類，文化などの起源を語る神聖な伝承であり，儀礼や祭式などの場で語り伝えられてきたものをいうことが多い。そうした神話の概念からすれば，『古事記』『日本書紀』などに筆録された日本神話は編纂に際して政治的な潤色を受けており，日本の古代国家の王権神話としての性格を色濃くもっている。しかし，他方，日本の神話が古代人の世界観を投影している部分を含んでいることも否定できない。

本演習では『古事記』上巻所載の日本神話を読みながら，神話と古代国家の関係を考えていくとともに，そこに反映している古代人の世界観を見てみることにした。すなわち，日本神話を通して古代の神々と王と人々の関係を知ろうとするのが目的である。

テキストは，岩波古典文学大系本『古事記　祝詞』を用いる。

教養演習B（都市と農村）4単位　　臼井恒夫

人間の社会生活は，空間的には都市と農村という二つの地域社会において営まれ，それぞれが都市社会学と農村社会学の対象とされてきた。この二つの研究領域の区別の背後には，都市と農村は基本的に対照的な特質をもつ別個の社会であるという認識が存在していた。

しかし近年では，こうした都市と農村の対比が旧来のままではけっして通用しえない状況があらわれてきている。都市と農村をふくむ全体社会の大きな変動のなかで，それぞれが相互にかかわり合いを強くしながら，変容をしいられてきているからである。

本講では，これまでの都市社会学および農村社会学的研究のなかから代表的な研究成果

をとりあげて，都市と農村の対比とその相互関連の様子を歴史的にあとづけてみたい。教材としてはプリントを配布する予定であるが，具体的なことは時期をおって指示する。

教養演習B（ノンバーバル・コミュニケーション）4単位　　鈴木晶夫

人間は社会的動物であり，人間の社会は人間関係というネットワークで結ばれている。その人間関係を形成していくのがコミュニケーションであり，社会から切り離されたコミュニケーションなどというものも存在しないであろう。しかし，コミュニケーションはあまりにも基本的なものなので，意識されることは少ない。そこで，人間関係，感情との関連から，ノンバーバル・コミュニケーションを含めたコミュニケーションについて考えてみたい。代表的なテーマは，原著や研究論文にあたり，また，各自の興味に応じて，グループでの研究及びその発表という形式も考えている。

〔参考書〕：斉藤　勇（編）『感情と人間関係の心理』（川島書店）

〔教　材〕：研究雑誌論文など適宜用意

教養演習B（武道のスポーツ化）4単位　　志々田文明

武道は日本の敗戦後すぐにＧＨＱの手によって社会及び学校での実施を禁止された。これは数年を経て徐々に解除され，スポーツ（競技）としての武道として復活された。その後，昭和39年の東京オリンピックを契機に日本武道館が設立されたこともあって，武道という言葉はスポーツとは異なるもののイメージで次第に社会に侵透してきた。さらに武道学会の設立や著名な国立，私立大学に武道論講座が設置されたことと相俟って，各種武道は今日の発展をみることになった。また61年の教育課程審議会では，主として男子の必修領域とされている「格技」を「武道」に改称することに合意をみており，現状での武道のとらえ方は多様な様相を示している。

この演習では，武道のもつ様々な特性（文化的，教育的，運動技術的等）の考察を通して，運動文化としての武道のあり方を探る。

〔参考書〕：中林信二『武道のすすめ』（近日刊行），富木謙治『体育と武道』（早大出版部）

（自然科学系）

物理学　4単位　　（前期）鈴木英雄

通常，物理学はその習得にかなりの数学的知識と時間を要すると言われており，多くの人々に敬遠されがちである。しかし，物理学の基本法則は極めて簡潔に表現されており，しかもその数は決して多くはない。従って，物理学を短時間で習得するこつは，その基本法則の内容を根本的に理解して，物理学的なものの考え方に早く慣れることである。本講

では，力学（運動と力を扱う），熱力学（熱とエントロピーを扱う），電磁気学（電気と磁気を扱う），光学（光を扱う）などの古典物理学の基本法則を，その歴史的形成過程に注目して根本的に理解できるように務める。また，数式も出来るだけ使わないように心掛ける。

（後期）石　渡　信　一

物理学は従来，無生物界の現象を対象として発展してきたが，生物界に見られる現象の中には，古典物理学を直接適用できるものもある。本講義の後半では，できるだけ生命現象・生体機能の中から題材を選び，力学，電磁気学，熱・統計力学の初歩を学ぶ。参考書として，例えば，ベネディック，ビラース著『医系の物理』（吉岡書店）を挙げておく。

化　　学　4単位　　（前期）桜　井　英　博
（後期）宇佐美　昭　次

人間と化学の関わり合いを中心に化学の基礎から話をする。具体的には，化学の法則，エネルギーの化学，環境の化学，生命の化学，生活の化学について教養的観点からのべる。

生態系科学　4単位　　大　島　康　行

生物と環境のなす系である生態系の概念，その基本的構造と機能にかかわる基本的事項，さらに各地域生態系の維持安定機構とその発展の基礎を概説する。次に生態系と人間の生存の諸問題，すなわち食糧，環境問題等を生態系の視点から順次講義をする予定である。

講義はプリント，スライド，ビデオを随時用いておこなう。参考書，文献は講義の際，紹介する。教科書は使用しない。

基礎数学　4単位　　石　垣　春　夫

高校で学んだ数学Ⅰ，Ⅱを復習発展させて，特に数学の，科学・工学への応用を中心に講義をする。あらゆる科学，ことに情報科学，工学の考え方の基礎として数学的な考えの意味を理解し，統計学やその他多くの専門科目へ進むためにそなえるようにしたい。

〔文献〕：『Basic Mathematics for the Physical Science』（マグローヒル社）

〔訳本〕：『科学を志す人のための基礎数学』（遠山啓訳，AGNE 社）

生命科学論（昭和63年度開講科目）4単位

生命科学の研究は近年急速に進展しつつあり，その成果はさまざまな面で深く人間の生活とかかわりあってきている。今日まで発展した生命科学の方法論とその成果について，他の自然科学の諸分野とも関連させ概説する。具体的な内容については63年の講義要項を参照されたい。

行　動　学　4単位　　春木　豊

下等動物から人間まで，ひっくるめて，「動物」つまり，「動くもの」という。このように「行動」は生命体にとって，広く共通のそしてルーツの深い現象であるといえる。

しかし，このような行動もその内容は多様であり，複雑である。反射や本能行動のように，生理的，生物的行動から，意図とか意志をともなう高度に精神的な行動まである。また，スポーツにおける運動技能や芸術における技術のような行動から，演劇における演技のような表現行動まで多様な意味をもつ。

この科目では，「行動」に焦点を当てて，このようなさまざまな行動について概観し，特に，人間にとって，行動がどのような意味をもつか考えることを主題としたい。

このために，比較行動学，行動主義の心理学，あるいは運動技能や演劇の理論，また，人間関係における社会的技能や社会現象としての儀礼の問題など取り上げたい。

人　類　学（昭和63年度開講科目）4単位　　北原　隆

人類の歴史を広く自然，文化人類学の両面から概説し，人類学を人間の科学としての観点から議論したい。講義は主として北原が行うが，一部他の教員も協力して行う。

精しい講義内容は次年度の要項に記す。

教養演習C（認知と動作）4単位　　石田敏郎

人間は，感覚器官により外部環境からの情報を受け，大脳において処理・判断し，行動する。この感覚器官への情報が，どの様なプロセスを経て行動として出現するか。また，感覚の種類により人間の反応が，いかに変化するかといった問題を，実験的観察等を含めながら学ぶ。

教科書は特に指定せず，必要に応じて資料を配布する予定である。

教養演習C（生物の構造と機能）4単位　　山内兄人

地上にはいろいろな生物がおり，それらは生きていく上で最も適した構造をもっている。従って，機能ぬきでは構造を考えることが出来ないし，その逆のことも言える。動物の動き，生理現象のほとんどが脳—脊髄（中枢神経系）で制御されていると言って過言ではない。脳—脊髄は感覚器，筋，内臓など末梢系からの情報を処理し，統合し，指令をする働きをもち，それに応じた構造をもっている。末梢の方もそれに応じた構造をもつわけである。本演習では人間科学の第1ステップとして自分たちの脳がどのようなものか顕著な働きをひろいだして考えていきたい。

〔参考書〕：『心のデザイン』（朝日選書 No. 300）
新井康允著『男と女の脳を探る』（東京図書）

教養演習C（行動の科学）4単位　　根建金男

生体の不随意な神経・生理的反応の変化を外部情報に変換し，それをその生体に伝達することをバイオフィードバックという。バイオフィードバックの対象となる生理的反応は，脳波，血圧，心拍数，皮膚温などである。バイオフィードバックについては，実験的研究のみならず，臨床への応用もさかんで，本態性高血圧，心臓不整脈，偏頭痛，不安・恐怖などの治療に広く用いられている。

授業では，人間におけるバイオフィードバックの研究について，邦文文献を読みながら学んでゆく。とりあげる主要な項目は，バイオフィードバックの概念，バイオフィードバックの歴史的背景，バイオフィードバックの基礎的研究，バイオフィードバックの臨床的適用である。

〔参考書〕：江草安彦ほか（訳）『1984　バイオフィードバック入門』（医学書院）

教養演習C（生活とスポーツ）4単位　　永田　晟

"Better Life Through Sports" のタイトルで，スポーツの概念，歴史，効果などを講義する。主要な内容は以下の通りである。

・スポーツとは何か
・現代社会におけるスポーツの位置づけ
・スポーツの種類，内容，ルール，方法
・スポーツの科学 (1) ハイテクノロジー
・スポーツの科学 (2) バイオメカニクス
・スポーツの科学 (3) コンピュータ，エイド
・スポーツの科学 (4) 社会科学と文化人類学（エコロジー）
・スポーツの科学 (5) メデイカル・アプローチ
・スポーツ医学
・救急法と予防医学
・スポーツトレーニング
・スポーツ療法と運動処方
・心理的限界と根性論

教養演習C（人間の音声と言語）4単位　　比企静雄

人間にとって最も基本的な言語情報伝達の媒体である音声の性質を，現在の高度情報化社会における情報処理機能の高速化・多様化に対処する立場で，文字による言語情報の伝達とも対比させながら，生理的・物理的・心理的・教育的な側面から概観してみる。聴覚・視覚による情報伝達様式の比較，音声の音響的性質と言語的記号との対応，日本語の50音図・現代仮名遣い・ローマ字表記と音声との矛盾，漢字の図形的特徴による分類，印

刷活字の字体の比較，仮名漢字混じり文の効用，文字の統計的性質と言語の文法的の特性などについて解説したうえで，情報処理システムと人間の仲介としての，文字鍵盤や文字の表示・印刷，機械による音声の認識・合成や文字の読取などの音声・文字入出力装置の効用についても検討し，さらに，聴覚・視覚障害に対する音声・文字情報の伝達のための補助的言語として，読唇・指文字・手話や点字などの伝達する情報についても紹介する。

教養演習C（動機づけと行動）4単位　　青柳　肇

「動機」は，行動をひき起こす原動力であり，「欲求」と言換えることもできる。「動機づけ」とは，動機とそれを満す目標を含んだ事態で，人を含む動物を行動に駆りたてることを言う。動機は，外から観察することができないため，主として行動により推測される。しかし，動機が同一でも行動が異なる場合もあるし，逆に行動が同一でも動機が異なる場合もある。そればかりでなく，動機が存在しても，それが行動として表出されないこともある。「動機づけ」は，「知覚」や「学習」とともに基礎心理学といえるが，今述べてきたように，他の領域と比較して研究の難しい領域といえる。このことを踏まえて，ここでは，動機の種類や機能，測定法，動機づけ理論などについて学ぶ。演習であるので，受講生の積極的な参加が望まれる。

教科書，参考書は，その都度指示する。

教養演習C（認知の発達）4単位　　佐々木　正　人

従来の，発達及び認識の理論の多くは，静的な，「動かない」身体を前提としていた。知覚，空間，記憶，発達などの領域で，身体の「動き」，身体を「動かす」ことを中心に置いた時，どのような認識の像が浮かびあがるのだろうか。

本演習では，認識の身体性を示唆する現象に関する基本的文献を広くとりあげ，講読する。人間を心（精神）と身体に分離して考える二元論を，「動く身体」の場から乗り越える道を探りたい。

保健体育科目講義

※全学科目　本年度（昭和62年度）開講科目

比較体育論　2単位　　古市　英

特定国（ソ連，東ドイツ，日本，米国，中国，英国等）の社会における体育・スポーツについて，その特徴を見い出すと共に，それが置かれている社会的地位や評価に関して研究する。

また，国際社会の中での体育・スポーツについての意義や可能性，あるいはマイナス要素等をオリンピック大会を中心とした一側面と比較しながら言及する。

こうした作業を通して，スポーツや体育，または身体文化が進むべき将来の道を追求する。

教科書の使用を考えているが，詳しくは，第一回目の授業時に指示する。

体育と生活　2単位　　前田勝也

体育とは何かと問えば，いろいろな立場からの見解が返ってくるであろうが，体育は少なくとも人間にかかわりのある事はいうまでもない，単にかかわりがある程度ではなく，体育は，幸福なそして豊かな人間を育成するための教育の中で，重要な領域の一つである。また，その人間教育の場が幾つかある中で，体育の最大目標を人間形成にあるとするならば，体育の実践活動の基盤となるものは，日常生活活動にあると，私は考えている。

このような視点から，日常生活活動に注目して，これの充実をめざすためには，どのような事柄があり，それらをいかに組み立てていくべきかを中心として論じたい。

コンディショニング　2単位　　上田雅夫
窪田　登

体力を維持，あるいは増強しながら心身の状態を良好に保っていくことがコンディショニングである。元来，これは主としてスポーツの分野で使われてきた。だが，生活環境が著しく変った今日では，たんにスポーツ選手のみならず，一般人のためにもこの技術が活用されるべき時代となった。運動不足状態が恒常的になり，複雑な人間関係に頭を悩まして，多くの文明病を生み出している昨今だからである。

本講義は10数回行われるうちの前半を窪田が，後半を上田が担当する。前者が身体面からのアプローチを，そして後者が心理面からのアプローチを試みる予定である。

基 礎 教 育 科 目

※開講年度の表示のない学科目は，すべて本年度（昭和62年度）開講科目

人間の諸問題（総合講座）4単位　　浅井邦二
濱口晴彦

人間とは何かという問いかけは，古今たえることなく問われつづけられてきた問いであり，この問いかけに最終的に答えることのできたものはいない。しかし，人間は永遠にとらえどころのない謎そのものなのだろうか。謎の多い存在ではあるが，謎そのものではないと思う。

人間の諸問題は生と死，男と女，人間と環境，心と体など，人間をめぐるさまざまな問題をふくんでいるけれども，これらは人間とは何かという大状況の人間ではなく，人間のあり様を時間と空間という2つの軸の中に人間をおいて，もっと身近にひきよせ，多角的に考察する手がかりを与えている。今年度は人間の生と死という，人間の発端と終点をつなぐ過程をふくめ総合的にアプローチする。詳しい内容は講義登録のさい呈示する。

環　境　論（自然・人間）（総合講座）（昭和64年度開講科目）4単位
大島康行
相馬一郎

前半は人間をとりまく自然環境と人間活動による環境変化に関する諸問題を概説し，自然災害も含め，現在，あるいは近い将来，人間の生存にかかわる環境の諸問題を共に考えていきたい。前半は3名の教員で分担して行う予定である。（大島）

人間と環境の係りあいを総合的に考えていき，人間にとっての環境のあり方を再考してもらい，問題意識をもってもらうことを意図している。このため自然的，人工的，社会的環境について（文化を含む）それぞれの領域から講義をしていく。講師5，6人を予定しており，それぞれの講義の中から問題点を見出し，各人が環境の問題について自分の考え方を作りあげていくスタートになることが期待される。（相馬）

バイオエシックス（昭和65年度開講科目）4単位　　青木清
木村利人
濱清

近年生命への関心が高まっている。それは①自然科学の方向転換により自然科学の最前

線が生命の探求に向っていること。②生命に関する解明が進むのと並行して生命の操作の技術化が急展開してること。③生命科学の進歩から自然科学的生命観の出現と，操作技術の展開により生命をどうとらえていくか，ということにある。これら三点について，生命科学の研究成果から述べる。（青木）

現代の生物・医科学技術の急激な進歩と発展に対応して展開されてきた「バイオエシックス」の基本原理とその体系を，基本的人権及び公共政策の形成に焦点を合わせつつ講義する。（木村）

情　報　処　理（コンピュータ基礎・実習）4単位　　石田敏郎
野嶋栄一郎

計算機により問題を処理するための基礎的知識を得ることを目的とする。

まず計算機の仕組み，歴史等について概略を述べる。次に TSS 端末及びパーソナルコンピュータを用い，各種ユーティリティの利用法と高級言語によるプログラミングの実習を行う。

大きく次の3内容にわかれる。

1. コンピュータの基礎知識
   コンピュータの仕組みと歴史，情報の表現，プログラミング言語とその特徴，オペレーティングシステムの概念とデータ処理
2. 基本操作
   当該端末の操作（TSS 端末，スタンドアロン），各種ユーティリティの利用
3. プログラミング入門
   流れ図によるプログラミング他

テキストは別途指定

〔参考書〕：IBM 5550 マニュアル等（使用端末のマニュアルから選択）

人間の構造と機能（昭和63年度開講科目）4単位　　木村一郎
野呂影勇

ヒトの体内でみられる様々な生物学的諸現象について，分子から個体に至るいろいろなレベルでの構造的理解をもとに，それらのメカニズムについて概論する。

人間についての総合的な理解のために必須である，生物としてのヒトについての基礎生物学的理解を目的としている。

〔参考書〕：Textbook of Medical Physiolosy.（A. C. Guyton）
『生理学』（真島英信）など　（木村）

ヒトの構造について個体レベルに焦点を当てて述べる。すなわち身体の構成，身体の区分，特徴，性差異について説明する。次に個体レベルでの機能として運動，感覚，神経な

どについて述べる。また情報の伝達経路について若干の具体例を挙げ述べる。以上により人間科学の基礎と応用に必要な人間行動の生理学的側面についての理解を図る。

〔参考書〕:『ガイトン』(内園・入来監訳)

『人体生理学:第二版　上下(1982)』(広川書店)

(野呂)

専門教育科目（各学科共通　必修）

人間発達の心理学（昭和63年度開講科目）2単位　　東　清和

人間の発達を生涯発達という視点からアプローチしてみたい。乳幼児，児童，青年，成人そして高年者の発達事実をとりあげながら，それらを説明するための発達理論を概説する。それに加えて男性と女性の心理的差異，すなわち性差の発達心理学をとりあげ，性差心理学の視点からの生涯発達を考えてみる。到来しつつある人生80年型社会における発達課題とは何かを問題として提起したい。

人間発達の社会学（昭和63年度開講科目）2単位　　濱口晴彦

人間発達の社会的側面を同一世代と異世代に分け，追体験的につぎのような構想で講述する。

1. 人間発達の社会学的諸問題
2. 幼・少年期の社会学
3. 成人の社会学
4. 高年者の社会学
5. 問題点のまとめ

参考文献等はそのつど指示する。

人間発達の生命科学（昭和63年度開講科目）2単位　　木村一郎

個体としてのヒトの発達における生殖，発生，成長，成熟，老化，死等の問題の基礎的な理解を目的とする。このヒトの発生学の学習が人間の発達の総合的理解，さらには福祉，バイオエシックス等を考えるときの生物学的基礎知識を提供できることを期待している。

〔参考書〕：『Conception in the Human Female』(R. G. Edward)
『発生における分化』（岡田節人）など

人間発達のスポーツ科学（昭和63年度開講科目）2単位　　永田　晟

人間の発育発達を生涯の成長や加令現象として把え，それにスポーツがいかに働きかけ，いかなる影響をもつのかを講義する。そのためには，人間発達の態様を科学的に分析し，加令と人間機能の関係を明確にしなければならない。さらにスポーツを科学的に分析し，人間とスポーツの相互関連を考察する必要がある。

これらの内容を主に生理学，心理学，解剖学，社会学，物理学，人類学，老人学の立場で詳講する。

人間発達の行動学（昭和63年度開講科目）2単位　　春　木　　豊

人間の「行動」に焦点を当てて，このことを中心に，人間の行動の発達の様相と，人間が発達するための行動の役割りについて，考えてみたい。

人間は成長とともに，運動技能は精緻となり，問題解決のための行動は高度化されてくるし，人間関係の行動も複雑になる。このような行動の発達を概観する。また，環境に働きかける行動は，逆に人間の発展をもたらす原動力となるが，そのような行動の役割りについて考える。

専門教育科目（人間基礎科学科　必修）

※開講年度の表示のない学科目は，すべて本年度（昭和62年度）開講科目

生物学概論　2単位　　大島康行

人間はヒトとして生物が共通して持つ生命の諸機構によって生きている。従って，人間科学を学ぶためには，自然科学としての生物科学の正しい理解と認識を持たなければならない。この科目は生物科学の各分野の講義に先だち，生物の基本的な諸機構について解説する。生命のしくみから，自然界での具体的な生活に関する問題まで広く概説したい。

比較形態学（昭和63年度開講科目）2単位　　山内兄人

哺乳動物はそれぞれ特有の生活があり行動パターンをもつ。その行動は中枢神経系（脳—脊髄）で制御されている。中枢神経系の構造は基本的にはどの動物でも同じであるが，行動様式の違いなどで良く発達している部分と，退化的な部分がみられる。いろいろな動物の神経系の構造と機能を比較し考えていきたい。

行動学概論（昭和63年度開講科目）2単位　　春木　豊

行動は，人間の生命，精神とともに，人間を考える上での重要な側面である。行動なしには，生命の維持，精神の実現，人間関係の活性化は生じ得ない。

このような行動について体系的な概観をしたい。その内容は行動の意味論，構造論，機能論，制御論（変容論），発達論，検査論（研究法）などからなるが，これらについて，できるだけ綿密にわかりやすく説明したいと思っている。

自然人類学（昭和64年度開講科目）2単位　　北原　隆

生命の歴史における種としての人類の出現を位置づけてから，ヒト以外の霊長類と人間の間に生じた形態差異を比較検討する。また，現生人類の出現に至ったヒト系統の進化を示す化石人類の資料をもとに，主な進化段階とそれに伴って現れた新行動を述べる。なお，一般生物進化の解明につかわれる進化総合理論の立場から，現在の人類学は，ホミニゼーション（ヒト化）のプロセスをどのように考えるかを講述する。

心理学概論（昭和63年度開講科目）2単位　　浅井邦二

科学としての心理学がいかなるものであるかについて，正しい認識を持つことを講義の目的としたい。そのために心理学の研究における科学的態度を身につけることを基本とし，人間の行動を対象とした時，「なぜ」に迫る方法論を学ぶことにより，人間理解の学としての心理学へと一歩ずつ近づくことができるものと思う。

社会学概論　2単位　　柿崎京一

社会学の対象とする人間は，孤立した人間を扱うのでなく「社会の中の人間」である。しかし，社会は，また人間のさまざまな行為，動機づけ，規範的要求，人間同志の相互作用といったものから切り離すことはできない。つまり，社会といっても，人間と別個の客体として存在するのではない。人間をとおしてのみ存在しているのであるから「人間の中の社会」と言いかえてもよい。その意味で，社会学では，単なる個人や社会を対象とするのでなく，社会的に獲得され，社会的に内面化され，社会的に方向づけられ強化されるものとしての，「人間の行動」が研究の対象となる。

本講義では，この人間の行動を特徴づける因果作用としてのシンボリック相互作用，規範的行為および伝統や慣習，役割と地位の体系などについて，基礎概念の解説を加えつつ考察する。さらに社会的エントロピーや社会変動についても触れたい。

社会生命科学（昭和64年度開講科目）2単位

生命科学は古くから人間社会に対し，科学哲学，方法論，研究成果の面で寄与するところが大である。近年の生命科学の急速な進歩によってますます深まり，社会と生命科学の関係を深く考究することが必要になってきている。この分野の基礎を歴史的に概説し，当面する問題を提起し，ともに考えて行きたい。

統計学概論（昭和64年度開講科目）2単位　　蜷峨座晴夫

全体は，統計調査論と統計解析論からなる。もちろん，統計データの解析手法の解説が中心であるが，講義の前段では，統計データの信頼性の問題について考察する。統計データの利用にあたっては，まずその作成段階における問題点を明らかにし，統計の評価を行うことが絶対に必要であるからである。

演　　習　Ⅰ・日本人の社会意識　　濱口晴彦
・家族のライフコース　　池岡義孝
・人間生活と資源　　矢野敬生
・動物の比較形態　　山内兄人
・動物（含む人間）の生理学　　吉岡亨
・心理テストと測定　　浅井邦二
・行動学（動作の理論）　　春木豊
・認知の発生理論　　佐々木正人
・自然科学の方法論
・生態学（生物の個体群・群集の構造と機能）　　大島康行

人間基礎科学科の「演習Ⅰ」は2年生が必修する科目である。前記の10名の教員を5名ずつ，A，Bのグループに分ける。受講する学生を10クラスに編成し（1クラス約10名），これを5クラスずつA，Bに分け，各グループごとに5種類の演習を年間を通じ，4～5回ずつ順次履修する。

各グループの教員のメンバーと演習内容の詳細は，次年度に渡す講義要項に記すので参照されたい。

演　　習　Ⅱ（人口移動の研究）（昭和64年度開講科目）4単位　　嵯峨座　晴　夫

人口移動は，広義には地域移動と社会移動（階層移動）の二つを含む。両者はともに，地域社会の変動をもたらす重要な要因である。この演習では，近年急激な都市化の進展をみせた首都圏の近郊地域を事例としてとりあげ，人口移動の実態を調査し，それが地域社会の変動にどのような役割を果たしたかを分析する。

演　　習　Ⅱ（日本の農村）（昭和64年度開講科目）4単位　　柿　崎　京　一

日本社会学の研究史の中でも，農村研究は，その歴史が古く，かつすぐれた研究成果を多く残している領域の一つである。本演習では，これらの研究史を概説し，基本的文献を紹介する。そのうえで各自が文献を講読し，発表する形式をとる。本演習をとおして，農村の社会構造，社会変動について理解を深めると共に，日本の全体社会，とりわけ日本文化論についても注目してみたい。

演　　習　Ⅱ（都市の近隣集団）（昭和64年度開講科目）4単位　　臼　井　恒　夫

都市社会は，いうまでもなく多種多様な集団によって構成されている。しかも，産業化・都市化の進行とともに，集団はさらに分化し増大しただけでなく，同時に集団そのものの性格も大きく変化した。本講では，都市の社会集団のなかでとくに地域集団（町内会・自治会・近隣集団など）に焦点をあてて，その構造と機能，および変化の様子などを検討する。テキストや参考文献については教場で指示する。

演　　習　Ⅱ（細胞の構造と機能）（昭和64年度開講科目）4単位　　木　村　一　郎

細胞生物学を中心とした国内外の論文等を通じて，方法論等を含む生命科学の現況を具体的研究例を通じて学習する。将来生命科学の基礎研究，応用研究に従事せんとする者にとって，さらには一般社会人として現代の生命科学を正しく理解し，批判する力を涵養するために，重要と思われる生命科学の基礎知識の把握を意図している。

演　　習 Ⅱ（生物の遺伝機構）（昭和64年度開講科目）4単位　　飯 野 徹 雄

生物の遺伝機構の解明に大きく貢献した研究業績にかかわる論文を選定し，輪読討論方式により，それらの学術上の意義を理解せしめると共に，科学研究における計画の立案，遂行，発表，またそれに対する評価はいかにあるべきかを会得せしめる。

演　　習 Ⅱ（行動学〈行為の理論〉）（昭和64年度開講科目）4単位

春 木　　豊

行動学に関するテーマから，特に「行為」つまり「行ない」について取り上げる予定である。

行為の理論は今まで，哲学や，心理学の分野で論じられてきているが，それらの中から材料を選び，行為について考えてみたい。

演習の形式や文献は，その時に予告する。

演　　習 Ⅱ（セルフコントロールの理論）（昭和64年度開講科目）4単位

根 建 金 男

行動論的セルフコントロールの理論のうちスキナー，カンファーとカロリー，ソレセンとマホニーらのものをとりあげ，説明する。また，行動論的セルフコントロールの主要な技法である，刺激制御，自己契約，自己教示，自己観察，自己強化，自己罰をめぐる研究の動向を紹介する。

〔参考書〕：上里一郎（監訳）『1978　セルフコントロール』（福村出版）

演　　習 Ⅱ（ノンバーバル行動の理論）（昭和64年度開講科目）4単位

鈴 木 晶 夫

人間や動物は，意識的・無意識的に行動により情報を表出し，その行動から情報を解読している。その際，ノンバーバル行動の果す役割は大きい。個々のノンバーバル行動についての研究は比較的行われているが，その割合に比べて総合的研究は少ない。代表的な研究論文の講読だけでなく，観察や実験を通じて，ノンバーバル行動をさまざまな角度から実習し，日常生活におけるノンバーバル行動の意義について考えたい。

演　　習 Ⅱ（達成動機づけ）（昭和64年度開講科目）4単位　　青 柳　　肇

達成動機とは，目標に高い基準を設定し，独自な方法でそれをやりとげようとする動機ということができる。ここでは，主として達成動機に関する国内外の雑誌や文献を読み，理解を深める。更に，実際に実験を行なって，達成動機に関する研究法も学ぶ。

教科書，参考書，文献については，授業でその都度指示する。

演　　習 Ⅱ（脳神経科学）（昭和64年度開講科目）4単位　　濱　　清

① 興奮伝導（形態，生理，生化，病因）

② 興奮の伝達（電気および化学シナプスの構造，細胞化学，生化，生理，病因）

③ 脳神経系発生（形態形成，機能発現に関与する分子機構）

④ 感覚器（構造，受容とトランスダリションの分子機構）

⑤ 行動

などについての新着および関連文献の検討

専門教育科目（人間基礎科学科　選択）

細胞学及び実習（昭和63年度開講科目）3単位　　木村一郎

近年の細胞生物学の研究の広がりと深化は著しいが，本講義ではその中で特に重要と思われるテーマについて特論的に扱いながら，また生化学的，発生生物学的要素等を加味しながら細胞生物学の基礎の把握を図る。

また実習では生きた細胞を取り扱うことによって，そのダイナミックかつ精緻な姿を実感してもらうことを意図している。

〔参考書〕：『Molecular Biology of the Cell』(B. Albert) など

組織学及び実習（昭和63年度開講科目）3単位　　山内兄人

動物の身体を構成する組織は作られてしまったら永久にそのままなわけではなく絶えず新しい細胞が供給されている。その変化はホルモンや神経などいろいろな因子により影響を受ける。それらを考えながら動物（ラット，ヒト）の組織を考えていきたい。実習は正常，またはホルモン投与後のラット組織標本の作成，変化の観察。脳の凍結組織標本を作成し内部を調べる。自分の血液組織観察等である。

生理学及び実習（昭和63年度開講科目）3単位　　吉岡　亨

本科目においては，生理学全般を理解する上に於て欠くことの出来ない基礎的な概念を習得せしめる事に重点を置く。したがって講義の内容は，ポテンシャルとか，緩衝といった物理化学の概念や，不可逆過程の熱力学の説明にも充分な時間をかける。更に物質の輸送，興奮，受容，収縮など一般生理学の中心課題を基にして，生命現象をマクロな捉え方から次第に細胞，分子へと堀り下げてゆく。実習ではヒトを対象としたものを重点的に行う。

遺伝学及び実習（昭和64年度開講科目）6単位　　飯野徹雄

遺伝学発展の歴史に沿って，遺伝子概念の成立，遺伝的変異の機構，遺伝情報系の実体，遺伝子発現の制御機構等の基本的知識を論説し，それらの基礎の上に，遺伝学的にみた生物進化，ヒトの遺伝と変異を講述する。

実習においては，遺伝学的分析法の基本である遺伝子の分離検定法，突然変異選抜法，遺伝子クローン化の基礎技術を習得せしめる。

脳神経科学及び実習（昭和63年度開講科目）3単位　　濵　　清

講　義

① 脳神経系解剖学および組織学

② 感覚器学＝視覚器，聴覚および平衡感覚受容器，味覚器，嗅覚器，皮膚知覚器＝の構造機能関連

実　習

① 神経組識の電顕所見解説

② 脳解剖実習見学（出来たら）

〔教科書〕：神経解剖学教科書（特定しない）

『神経組織の電顕図譜』(Peter, Palay, Webster, Saunders.)

情報生理学及び実習（昭和63年度開講科目）3単位　　吉　岡　　亨

ヒトが生命を任うするためには，摂食・生殖などの諸行動をつつがなく行わなければならない。ヒトはこのために外界の状況を観察し適切な対応を行っている。そのために体内には電気的情報（神経インパルス）と物質的情報（ホルモン）の伝達経路がすき間なく配置されている。ここでは電気的・物質的情報の伝達の機構に焦点を絞って解説すると同時に，実習を通して，それらの現象を体験的に理解させ，ヒト体内の情報伝達システムを総合的に理解させる。

生態学及び実習（昭和63年度開講科目）3単位　　大　島　康　行

生態学の基本的諸問題をヒトも含め，個体，個体群，種社会，群集について概説する。

実習は講義と連携をとりつつ，生態学の基礎的実験をおこなう。この講義を受講する学生は，あらかじめ，一般教育科目の「生態系科学」を受講しておくことが望ましい。

生　物　工　学（昭和64年度開講科目）2単位　　飯　野　徹　雄

生物工学の基本技術である，細胞培養，細胞融合，組換え DNA，バイオリアクター等の諸技術について，その成立の背景と技術的内容を通説した上で，生物工学活用の現状を，生物生産，育種，難病治療等の各種応用分野にわたって講述する。

比　較　行　動　学（昭和63年度開講科目）2単位　　青　木　　清

ヒトも含めた動物の行動発現と行動の特徴について，神経生理学的方法による成果について述べる。①動物における本能行動，②学習，③行動を制御する中枢神経回路，④行動の発達と脳，⑤神経生理学に基づいた本能論などを述べる。これら課題については最近の研究成果にもとづいて述べるが，目的は人間の自然科学的理解を得ることである。

生 理 心 理 学（昭和63年度開講科目）2単位　　山 崎 勝 男

酒を飲めば朗らかになり，脳が傷つけば，一定の精神機能が損われる。この事象は，体（脳）に変化が起きて，その結果，心の変化が生じたものと，考えることができる。ここでは，動物を用いた脳の刺激・破壊実験から導き出された，脳と行動との関係，および人間の臨床観察から得られてきた，脳と心との関係を概説する。

行 動 理 論（昭和63年度開講科目）2単位　　根 建 金 男

行動変容の背景となっている行動理論のうち，主要なもの，すなわち，ワトソンの行動主義，ガスリー，トールマン，ハル，スキナーの新行動主義，バンドゥラの社会的学習理論，マイケンバウムの認知的行動変容などをとりあげ，解説する。

〔参考書〕：佐藤方哉著『1976　行動理論への招待』（大修館書店）

行動学研究法及び実習（昭和63年度開講科目）3単位　　鈴 木 晶 夫

行動は心によりコントロールされ，心が変化することによって行動も変容すると考えられる傾向にあるが，もっと積極的な意味で行動について論議したい。その行動研究のための基礎的な研究計画のたて方，行動の測定，記録方法，データの処理方法などを収得する。次に，実際に実験室やフィールドでの実習をまじえて，動物・人間の行動について考えてみたい。

非 言 語 行 動 論（昭和63年度開講科目）2単位　　鈴 木 晶 夫

非言語的情報伝達手段として代表的チャネルに，表情表出，視線行動，身振り（ジェスチャー），空間行動などがあげられる。これまでの研究から導き出された事実を中心に講義し，非言語的行動を通じて，動物や人間がどのようにして他者とコミュニケーションを形成し，維持し，発展させているのかについて考えたい。

心理学研究法及び実習（昭和63年度開講科目）3単位　　佐々木 正 人

感覚，知覚，記憶，イメージ，問題解決，言語等の認知過程を対象とする実験心理学の研究から，典型的なパラダイムを選択し，その研究の流れを実際に追体験する。

伝統的な実験研究に加え，最近登場した，エコロジカルな認識研究についても検討する。

両者を対比させることから，人間の認識研究法の広がりを理解する。

心理学的測定法及び実習（昭和63年度開講科目）3単位　　浅 井 邦 二

心理学的測定は物理的測定とは異なる面を持っており，その違いを明らかにすることが必要であるが，いずれにしても科学的研究に従事する者にとって事象の特性に関する数量

化，すなわち測定は不可欠の条件である。精神物理的測定，テスト作成と分析，尺度構成など，実習を伴って具体的に心理学的測定法を習得できるようにしたい。

認知発達理論（昭和63年度開講科目）2単位　　佐々木　正　人

知覚，イメージ，言語，空間認識等，認知発達研究の中心的なテーマについて，Piaget（ピアジェ），J.，Vygotsky（ヴィゴツキー），L. S.，Wallon（ワロン），H.，Gibson（ギブソン），E.，Bower（バウアー），T. G. R.，等の認知発達理論がどのように扱っているのかを探る中から，諸理論の枠組についての理解を得る。発達研究のトピックスである「領域固有性」，「文化と思考」の問題等についても考えたい。

動機づけ理論（昭和63年度開講科目）2単位　　宮　本　美沙子

伝統的な動機づけ理論と最近の動機づけ理論を対比させつつ，人間の動機づけについて考察することを中心課題とする。具体的には，外発的動機づけと内発的動機づけの問題，達成動機とテスト不安の問題，動機づけと原因認知（統制の位置，原因帰属，自己原因性など）の関係につき，その概念，獲得過程，発達的様相などを究明してみたい。さらに，動機づけの測定法についても触れておく。

社会学理論史（昭和63年度開講科目）2単位　　濱　口　晴　彦

現代社会学理論を，

1.　社会学思想の形成

2.　社会学理論の特徴

の2つの観点から講述する。

〔参考書〕：『社会学講義』（早大出版部刊）

社会集団論（昭和63年度開講科目）4単位　　矢　野　敬　生

社会は単なる個人の集まりではなく，ひとは互いに依存しあい，なんらかの関係を保ちながら生きている。こうした営みを集団性の視座からとらえようとする。そこで，社会学の「集団論」のみならず，社会人類学の「社会組織論」の成果をふまえて講義をすすめる。基本的には，（Ⅰ）部族社会，（Ⅱ）農民社会，（Ⅲ）産業社会といった進化論的展望を縦軸に，横軸には各レベルに対応した特徴的な集団である親族集団，村落共同体，機能的集団に焦点をあて，現実の諸社会のもつ内的複雑さと多様性の把握を通じて，社会集団の諸相を明らかにしたい。

家族社会学及び実習（昭和63年度開講科目）3単位　　池　岡　義　孝

家族の変動と多様性が論じられる現在，家族研究にもそれに答える新たな視点が求められている。そのためには，現時点までの家族社会学の成果を再検討する作業が必要であろう。本講では，これまで家族社会学がいかなる視点に立ち，どのような方法と理論を用い

て家族を研究し，いかなる成果をあげてきたかを検討する。その上に立って新たな視点やこれからの課題を提起し，その有効性を実習で検証することにしたい。

地域社会学及び実習（昭和63年度開講科目）3単位　　柿崎京一

地域社会の事例として日本の村落社会をとりあげ，近代以降における，産業化・都市化による社会変動の過程について，既存の研究成果をふまえつつ，実証的資料にもとづいて考察する。同時に，地域開発や地域計画といった政策と地域住民との関係，さらに住民運動にも論及し，人間生活にとっての「地域」の意味について考えてみたい。

さらに，そうした考察を，実証的に把握するために実習を行う。

都市社会学及び実習（昭和63年度開講科目）3単位　　臼井恒夫

簡単な調査実習ないしは既存資料の二次的分析をおこなうことを念頭において，都市社会学に関連した研究テーマを各自の問題関心のなかから引き出したい。そのために，参加者の研究報告と討論を中心にして，具体的なテーマ設定に結びつけていく。したがって，研究テーマ，調査地，調査方法などは未定であるが，こうした集中的な作業をつうじて，文献の読解力，集計・分析・報告の能力を身につけてもらいたい。

社会福祉論Ⅰ（昭和63年度開講科目）2単位　　児玉幹夫

Ⅰでは，社会福祉の思想の展開と制度の発達を歴史的にあとづけ，次いで現代の社会福祉の主体・対象・方法を体系づけ，さらに福祉の諸分野にわたって理論的講述を行い，この方面の知識を整理し教授する。

社会福祉論Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　児玉幹夫

Ⅱでは，社会福祉実践の科学的発展をめざし，対象の客観的把握のための社会福祉調査，並びにケースワーク，グループワーク，コミュニティワークなど，社会福祉の専門技術について，その方法と実際を教授する。

社会病理学（昭和63年度開講科目）2単位　　臼井恒夫

社会病理学は，人間の行為，生活，社会集団に生じた障害を社会学的手法を用いて分析，検討し，その障害を取り除いて安定した社会生活を実現する方策を探究する。その意味で社会病理学は，社会学のなかでもっとも実践的志向の強い領域であるといえる。

本講では，社会病理学への理解をえるために，その形成と発展の歴史をそのときどきの社会的背景と照らしあわせながらあとづけていく。テキスト，参考文献については教場で指示する。

人　口　学（老年学を含む）（昭和63年度開講科目）4単位　　嵯峨座　晴　夫

人口学（demography）は，主として，人間の集合体である人口に変動をもたらす出生，死亡，移動などの諸要因の分析と，人口と社会経済的変数との相互関係を解明することを目的としている。体系化された人口分析の方法，および応用としての人口研究の理論を紹介するとともに，社会老年学の立場から，高齢化社会における高齢者の社会的役割と扶養の問題について考察を加える。

特　論　Ⅰ（現代免疫学）（昭和63年度開講科目）2単位　　小　野　　魁

生物が自己にとって有害なものを適切に処理して生体の恒常性を維持する仕組みを生体防御という。生体防御機構の最も進化した形が“免疫”と呼ばれ，その特徴は“二度かかりなし”―①特異性，②記憶，③自己と非自己の識別―という点にある。

この免疫機構を細胞レベル，物質レベルでとらえ，病気の予防，治療のための基礎となる生体の働きを学ぶ。

特　論　Ⅱ（社会福祉調査）（昭和63年度開講科目）2単位　　外　木　典　夫

社会福祉調査は，ケース・ワークやグループ・ワークと異なり，人々の問題解決に直接たずさわる方法ではなく，社会福祉に必要な資料を提供し，事業の理論化をはかり，将来の予測をも行う役割を負う。この調査は，個人，集団，地域社会のニーズ測定や充足の度合いの検証に向けられてきた。この講義では，社会福祉調査の方法についての基本的な理解を深めるようにつとめたい。

専門教育科目（人間健康科学科　必修）

福祉援助論（昭和63年度開講科目）2単位　　岡野静二

欧米における社会福祉の発達と，その日本への影響について考える。またそれとは別に，わが国における福祉的行動の歴史的展開を調べる。そして日本の精神的風土の中で，なにが福祉援助を，基本的に支えるものなのかを探りたい。そこで次の項目にしたがって授業をすすめることにする。

(1)欧米における福祉援助とそれを支える社会　(2)日本における福祉援助とそれを支える思想と社会　(3)今後の課題

地域福祉論（昭和63年度開講科目）2単位　　岡野静二

現代社会における地域福祉の重要性を，説明しつつ，福祉が地域社会形成の基本的条件であることを明らかにする。そこで次の項目の順序で，講義をすすめる。地域社会とボランティア活動。地域社会と小・中学生問題。地域社会と青年問題。地域社会と高令者問題。以上の講義には，実践的な問題や課題を，多く提出することにする。結局，地域福祉の課題として，なにができるか，どこまでできるかを，じっくり考えることがねらいである。

臨床心理学（昭和63年度開講科目）2単位　　門前　進

臨床心理学は心理学の現実への応用に重点がおかれている。しかし，現実の臨床心理学に関係する学会の発表や論文を見ていると，心理学の基本的な部分がかなりおろそかにされている傾向がある。科学としての心理学と実践としての臨床心理学の関係に重点を置き，心理学の現実への応用に関係する領域について，話していく。また，応用場面から基礎心理学に影響を与える側面もある。これらのことにも重点を置きたい。

人間関係論Ⅰ（昭和64年度開講科目）2単位　　安藤喜久雄

ホーソン実験に始まる人間関係論の生成，発展について述べるが，それらが社会学的にどのような意義，特徴を持っていたかを明かにする。また，職場の人間関係について社会学的に何が問題であり，人間にとってどのような意味を持っているかについて明らかにしたい。

人間関係論Ⅱ（昭和64年度開講科目）2単位　　斉藤　勇

人間関係の心理学的アプローチを中心に講義する。講義内容は次の通りであるが，可能

な限り，実際の調査や実験も実施していく予定である。

- 人間関係の発達
- 人間関係の認知
- 人間関係と感情
- 対人間の相互作用
- 集団の中の人間関係
- 組織の中の人間関係
- 人間関係を知る研究方法

精神身体医学Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　中村陸郎

精神身体医学は，心身相関の立場から，人間の罹患する疾患，特に心身症について，総合的にその病態を理解し，診療していくことをめざすものである。本講義では，(1)精神身体医学および心身症の概念　(2)心身相関の身体的（生理的）並びに精神的（心理的）メカニズムとその病態　(3)心身症の個々の疾患，特にその発症の機制や治療法などについて講述を行う。

環境心理学Ⅱ（昭和64年度開講科目）2単位　　佐古順彦

レストランでの食事，図書館での学習，コンサートでの音楽鑑賞などのように，場所と行動との間には一定の対応関係がみられる。「行動場面」の理論（「生態心理学」）に関するロジャー・バーカーたちの研究について解説する。さらに，身近な行動場面の自然観察をおこない，場面のダイナミクスを分析し，類似の場面をデザインするためのストラテジーについて考えてみる。

運動・保健概論（昭和63年度開講科目）2単位　　宮崎正己

運動は，大筋群や小筋群活動によりおこなわれる行動である。本講義では，健康の維持増進をすすめていく上で，基本となる事柄についておこなう。

レクリエーション論（昭和64年度開講科目）2単位　　吉村　正

学校や職場，あるいは家庭において，健康的な生活を営むために必要なレクリエーション活動について講義する。

〔テキスト〕：吉村　正著『図解・健康カルテ，リフレッシングスポーツ事典』（柏書房）

演　習　Ⅰ（比較文化論〈ヨーロッパ文化の流れ〉）（昭和63年度開講科目）4単位
蔵持不三也

ヨーロッパに最初に人類が出現したのは，今から40ないし50万年前とされている。本講の目的はそうした長大な文化の流れを概観するところにあるが，講義内容の散逸を避ける

ため，とくにテーマを人類の《造形表現》に絞り，それを通して，ヨーロッパ人の祖先たちがいかなる宗教観や審美観をもち，どのような生活を営んできたかを数多くのスライドを用いてみていきたい。教科書あり。

演　　習 Ⅰ（コミュニティ論）（昭和63年度開講科目）4単位　　岡　野　静　二

前半では，国や都道府県そして市町村など，行政側がかかえている様々の課題と，民間団体や住民個人がもつ問題点を，できるだけ多く発見する。そして学生諸君自身が，それらの課題や問題の中で，最も重要でありかつ関心のあるものを，研究課題としてしぼる。

後半では，多くの理論研究成果や調査資料を，研究課題の解決に役立てる仕方を学ぶ。そして，福祉行動がコミュニティの中でどのように機能しているかを，理解していく。

演　　習 Ⅰ（心理療法〈精神分析を中心とした心理療法〉）（昭和63年度開講科目）
4単位　　門　前　　進

精神分析はフロイトによって始められたものである。人間は自分の考えることは総べて分かっているという気持を持っているが，気づかない意識を持っている。例えば失錯行為などによくみられる。この気づかない意識が無意識である。無意識の意識化に重点を置き，自由連想の技法を通して心理療法を行うのが精神分析療法である。精神分析の概要を理解するために，フロイトの著した『精神分析入門』を読む。

演　　習 Ⅰ（スポーツ教育論〈教育におけるスポーツの位置づけ〉）
（昭和63年度開講科目）4単位　　伊　藤　順　蔵

わが国では，スポーツが体育実践における教材としてとりあげられ，指導されてきた長い歴史がある。そのスポーツは，社会の要請に対応し，他の文化と関連しながら変遷してきた。ときには，勝敗にこだわる行きすぎの規制・遊びの場ではないという教育観・商業化や政治化から生じる弊害の防止などが問題になってきたわけである。

人をつくるスポーツ教育は，如何にあるべきかを考えてみたい。

演　　習 Ⅰ（環境認知と行動）（昭和63年度開講科目）4単位　　佐　古　順　彦

空間行動に関する研究の概観を提供する。

(1)環境内の定位と移動のための空間情報を処理する認知構造の研究について。距離・方向・ルートの記憶や地図の利用等の「認知地図」能力を分析する。

(2)日常行動にみられる社会空間図式の研究について。人間が環境のなかにもちこむ心理的な「距離」や「空間」，たとえば，ナワバリ，プライバシー，個人空間などを取り上げて人間行動の空間分析をおこなう。

演　　習　Ⅰ（社会開発論〈都市化と住民の諸問題〉）（昭和63年度開講科目）4単位

店　田　廣　文

都市化（都市への人口集中）は都市社会構造の変動を招き，様々な都市問題を惹起したとされる。しかし都市化は主に「解体論」が強調してきた様な効果ばかりをもたらす訳でなく，最近の「アーバニズムの下位文化論」にみられる様な積極的な効果をも併せもたらすのである。本演習では特定の都市社会を対象とし都市化に伴う社会構造の変動と住民の地域生活に生ずる諸問題を網羅的にとりあげ考察しつつ参加者の問題意識を深めていきたい。

演　　習　Ⅰ（人間工学〈視覚環境と人間工学〉）（昭和63年度開講科目）4単位

石　田　敏　郎

視覚に関する基礎的な知識の習得と，視覚とディスプレイ，照明等，人間工学的側面からの研究例の理解を目的とする。

授業は，実験的観察，デモンストレーションを含むが，受講者の発表を中心として進める。

演　　習　Ⅰ（人間工学〈労働環境と人間〉）（昭和63年度開講科目）4単位

野　呂　影　勇

労働環境に関する人間工学の基礎的な測定の方法について述べる。すなわち人間の入・出特性の測定として反応時間，誤りの測定と解析について演習を行う。人体計測についての演習とデータの解析そして運動の測定・解析および視覚に関する測定と解析を行う。最後に労働環境での基本となる施設すなわち，通路，棚，階段，椅子と机についての演習を行う。

〔教科書〕：野呂影勇著『調査実験人間工学』（日刊工業新聞社1984）

演　　習　Ⅰ（カウンセリングの問題）（昭和63年度開講科目）4単位

菅　野　　純

Rogers, C. によって提唱されたカウンセリングの理論，歴史，その展開方法について，実習と事例研究を行いながら学んでいく。

更に，遊戯療法，フォーカシング，精神分析，箱庭療法，行動療法，家族療法，芸術療法，エンカウンター・グループ療法など，他の心理療法との比較の中で，カウンセリングの可能性を追求する。

演　　習　Ⅰ（教育工学〈教育心理学と教育工学〉）（昭和63年度開講科目）4単位

野　嶋　栄一郎

教育工学の主たる研究領域は，教授＝学習＝評価に関わる内的過程と外的環境及びそれらの交互作用の周辺にある。本演習はこのうちで，教授＝学習過程の成果の測定・評価に関わる方法論について学習する。この分野の方法論は主として，教育心理学の領域から派生しており，結果的に，心理学的測定法から教育工学の分野で開発されたデータ解析手法に至るまでを，実例にあたりながら学習することになる。

教科書　別途指定

演　　習　Ⅰ（学校カウンセリング―初等・中等教育とカウンセリング―）

（昭和63年度開講科目）4単位　　小　泉　英　二

この演習では，小学校および中学校において，学校カウンセリングを実施していく場合の基本的な考え方を明らかにすると共に，実践に役立つ技法上の演習をすることを目的とする。たとえば，カウンセリングと教育，児童生徒理解の方法，事例研究の実際，カウンセリングのすすめ方，遊戯療法，箱庭療法，専門機関との連携，相談係の役割などについて，ロールプレイ，見学，討論などの方法を用いて学習する。

演　　習　Ⅰ（バイオエシックス）（昭和63年度開講科目）4単位　木　村　利　人

バイオエシックスの視座からの事例研究（たとえば，遺伝子治療，臓器移植，精神病，死と死の過程などの問題をめぐって）によりバイオエシックスの基礎的理解を深め，その原理を比較法文化的に検討する。

演　　習　Ⅰ（栄養と健康〈総論〉）（昭和63年度開講科目）4単位　太　田　冨貴雄

人間が成長し健康で活動的な生活を送るためには，およそ50種類の栄養素を食物から摂取しなければならない。これらの栄養素は各々特有の機能，すなわち体成分の構成材料やエネルギー源，あるいは生理機能の調整などを行っており，栄養摂取の過不足や不均衡は健康水準の低下をもたらす。本演習では，各栄養素の生理・生化学的機能と栄養摂取の不均衡が生体機能や健康指標におよぼす正負両面の効果に関して，文献による調査・検討並びに討論を行う。

演　　習　Ⅰ（環境心理学〈社会環境〉）（昭和63年度開講科目）4単位

相　馬　一　郎

ここでは環境の認知について，それをどのようなかたちで把握できるのかを特に社会的環境を中心にしてとりあげていく。

このため基礎的な評価・手法の学習および，それを実際におこない，結果を処理してい

くといった実習をおこなう。

演　　習　Ⅱ（比較文化論〈ヨーロッパと日本の祭と伝承〉）（昭和64年度開講科目）
4単位　　蔵　持　不三也

祝祭とは民衆文化のいわば綜合芸術としてあり，同時に当該社会の構造が端的に現出する場としてもある。本講では，そうした祝祭の在り様やそれを取り巻くもろもろの民俗慣行を我が国とヨーロッパに追い，彼我の人々の心性や社会構造，文化伝統といったものを比較・検証するとともに，祝祭の本質についても新たな観点から迫ってみたい。スライド使用。教科書あり。

演　　習　Ⅱ（高齢者を含む福祉援助）（昭和64年度開講科目）4単位
岡　野　静　二

まず，高齢者問題が，福祉援助として，いかに重要な機能であるかを理解する。そのために，それに関する内外の文献をしらべ，同時に身近かな高齢者達のところへでかけ，調査をすることにする。そのことによって，問題点や課題が，各人の中にたしかなものとして生れたら，日本における高齢者問題を，日本の経済的文化的基盤の上で把えることに努力したい。そして，ささやかな個人の行動と，組織の力とで，なにができるかを考える。

演　　習　Ⅱ（心理療法〈催眠を中心とした心理療法〉）（昭和64年度開講科目）
4単位　門　前　　進

催眠状態では，それ特有の現象が生じる。それを利用した催眠療法について，勉強していく。一般に催眠は一方的に働きかけるものと信じられているが，一方的なものではない。催眠にかかる人も下意識レベルで話しかけてくる。相手の微妙な話しかけを見て，それに応じてこちらが働きかけていく。この様に催眠療法を行う上で，重要な相手の動きがある。ここにポイントを置いてエリクソンの『心理療法セミナー』を読んでいく。

演　　習　Ⅱ（スポーツ教育論〈スポーツと人間形成〉）（昭和64年度開講科目）
4単位　伊　藤　順　蔵

近代スポーツの発展は，イギリスのパブリックスクールで，スポーツを人間形成のための教育的手段として活用したことに由来しているといわれる。

スポーツ適性・スポーツへの欲求（技術向上欲・勝負感・充実感・社会性）・スポーツの効果（体力づくり・モラル）・組織・学校スポーツ・指導者など，スポーツ活動がもつ人間形成の機能と背景について研究する。

演　　習　Ⅱ（発達と環境）（昭和64年度開講科目）4単位

有機体発達論の立場から環境認知と環境評価の実験・実習を行う。環境を物理的，社会

的，社会文化的なものに分け，認知や評価の発達差と環境への慣れによる違いを明らかにする。具体的には，キャンパスや都市の認知地図の作成と分析，町並みや自然景観の評価，アメニティの概念の分析，PDM による新入生の対人関係網拡大過程の分析，サークルの雰囲気や学風の SD 法による分析，規則や伝統・習慣などが人間行動に及ぼす影響などを検討する。

演　　習　Ⅱ（社会開発論〈都市における住民運動〉）（昭和64年度開講科目）4単位

店　田　廣　文

住民運動はひと頃に比べると社会の耳目を集めるといった点では大きく後退した感は否めない。しかしこれは都市社会に運動の対象となりうる問題等が減少したのではなく，従来の公害などの謂わば直接的な生活妨害問題といった狭い領域からより対象が広がり運動そのものが多様化し質的変化をとげたためといえよう。本演習では「演習Ⅰ」をふまえて社会開発に関わる住民運動をテーマとして取りあげ特定の都市を対象として演習を運営したい。

演　　習　Ⅱ（人間工学〈視覚的疲労と動作〉）（昭和64年度開講科目）4単位

石　田　敏　郎

オフィスオートメーション（OA）の発展に伴い，事務所では，VDT 作業など，視覚情報処理作業が増大してきた。その結果，視覚的疲労や，局所筋負担などが，新たな産業疲労として，人間工学の重要な課題となっている。本講では，この問題を中心として，疲労とヒューマンエラーの関係などについても言及する。

演　　習　Ⅱ（人間工学〈労働環境と人間〉）（昭和64年度開講科目）4単位

野　呂　影　勇

作業管理についての演習を立位と座位姿勢の労働を例にとり基本的な測定を行う。次にオフィスのワークステイションについて装置とオペレータの関係を生理，感覚，運動，自覚的疲労などについて測定し得られたデータから労働環境の総合的な理解をする。ついで職場の環境の測定とくに照明について測定と評価の方法について演習を行う。最後に健康管理とくにヘルスチェックの実施法と保健婦・医師との関係について事例研究を行う。

教材　別途作成したものを用いる。

演　　習　Ⅱ（人間行動と環境（医））（昭和64年度開講科目）4単位

黒　田　　勲

健康評価のための各種生体パラメータの意義，相関性，これらの評価基準について演習する。

単一，複合情報処理時における行動形態とその定量化について，さらにタスクの流れの

解析，特性の把握，人的信頼性の評価手法等を簡易な生体情報の変化，動的行動分析とともに演習をする。

演　　習 Ⅱ（学校カウンセリング―高等教育とカウンセリング―）

（昭和64年度開講科目）4単位　　小　泉　英　二

この演習では，主として高等学校および大学において，カウンセリングや学生相談を実施していく場合の基本的な考え方を明らかにすると共に，実践に役立つ技法上の演習をすることを目的とする。たとえば，カウンセリングと教育，カウンセリングのすすめ方，事例研究の実際，グループカウンセリング，相談室の運営，専門機関との連携などについて，ロールプレイ，テープ聴取・見学・討論などの方法を用いて学習する。

演　　習 Ⅱ（教育工学〈教授法と教育工学〉）（昭和64年度開講科目）4単位

野　嶋　栄一郎

教育工学の主たる研究領域は，教授＝学習＝評価に関わる内的過程と外的環境及びそれらの交互作用の周辺にある。本演習はこの中で，教授＝学習過程の制御に関わる理論の学習を中心とする。最近における教授理論の研究は，大きくわけて認知心理学の系譜と教育工学の系譜を中心に展開されているため，この両者を学習する。学習の最終目標を，特定の教授目標に基く学習プログラムの試作に置く。

教科書　別途指定

演　　習 Ⅱ（行動療法）（昭和64年度開講科目）4単位　　坂　野　雄　二

「行動療法研究」誌，“Behavior Therapy”誌，“Behaviour Research and Therapy”誌に発表された論文や症例報告を中心にして，行動療法の実際について，実験臨床とケーススタディの両面から演習を行う。「行動療法Ⅰ」および「行動療法Ⅱ」において学習した基礎的事項を実際の臨床場面において応用できるよう学習を行う。

演　　習 Ⅱ（栄養と健康〈各論〉）（昭和64年度開講科目）4単位　太　田　冨貴雄

成長期のタンパク質やカルシウム・ビタミンAに富む食事は骨格・身長の発達を促がし，中高年期の多価不飽和脂肪酸や植物タンパク質・食物繊維が多い低食塩食は，動脈硬化や高血圧の進行を抑えて成人病を予防する。この様に一生の時期により栄養摂取の至適パターンは変化し，また各種疾患の予防や治療に有効な食事構成も異なる。本演習では，成長・発達や体力・寿命など各種健康要素と疾病の予防・発生におよぼす食生活の影響について，文献による調査・検討並びに討論を行う。

演　　習 Ⅱ（環境心理学〈教育環境〉）（昭和64年度開講科目）4単位

相　馬　一　郎

教育環境を中心にとりあげて（実習を含む）いく，教育環境といわれるものには，地域・家庭・学校環境が含まれる。したがって，その対象はかなり広範囲にわたる。

どの領域を中心にするかは，各自の選択により決ってくるが，いずれにしろ，実際に調査なり，実験なりをやることが必要である。

専 門 教 育 科 目（人間健康科学科　選択）

※開講年度の表示のない学科目は，すべて本年度（昭和62年度）開講科目

産業・職業社会学（昭和63年度開講科目）4単位　　安　藤　喜久雄

産業・職業社会学の諸分野――企業組織，労働者意識，疎外，労働組合，労使関係，産業社会，職業など――についてこれまでの研究成果を概括的に紹介しながら，各々の課題について述べる。そしてこれらを通じて現代社会における人間の生き方を探ってみたい。

生活構造論Ⅰ　2単位　　池　岡　義　孝

生活構造とは，個人と社会構造の相互連関の解明を課題とする社会学にあって，その両者を連結する概念として提起されてきたものである。生活構造研究は，戦後の社会政策学的な貧困研究を出発点とする比較的新しいものだが，その後都市社会学，農村社会学，家族社会学など多様な研究領域で注目されてきた。本講では，こうした生活構造研究の主要な系譜を学ぶとともに，消費行動論におけるライフスタイル研究，家族社会学の新領域としてのライフコース研究，社会運動論におけるネットワーク研究など，生活構造論と連動する新しい研究領域についても取り上げることにしたい。

〔参考文献〕

『生活構造』リーディングス　日本の社会学5，三浦ら編，（東大出版）（1986年）

『友達の友達』ジェレミー・ボワセベン著，池岡・岩上訳，（未来社）（1986年）

生活構造論Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　柿　崎　京　一

「生活構造」の概念及び研究史について要約，紹介し，生活構造論を構成する基礎的理論及び生活体系と生活環境に関する実証的研究について講義する。

社会運動論（昭和63年度開講科目）2単位　　濱　口　晴　彦

社会運動を社会問題解決の集合的志向として，それらの事例をふまえながら講述する。

1. 社会運動と近代化
2. 社会運動の構造化
3. 社会運動の組織化

〔教科書〕：『社会運動の組織化』（早大出版部刊）

社会意識論（昭和63年度開講科目）2単位　　北　村　　實

社会意識とは，ある特定の社会に典型的な見解，信念，理論，価値，規範などの総称で

あって，明確なイデオロギーの形態をとるものから，漠然とした社会的感情・気分として表象されるような社会心理である。したがって，どの側面を取り上げるかによって，かなりの違いが生じるが，この講義では，主として道徳的価値意識に焦点をしぼって論じてみたい。

社会調査法Ⅰ（昭和63年度開講科目）2単位　　池岡義孝

社会調査は，特定の社会現象を解明するために定められたデータ収集と分析の科学的方法である。その意味で社会調査は，自然科学における実験に対応する，社会科学の科学的方法にあたるものといえる。本講義の目的は，社会調査の歴史的展開をあとづけ，現在用いられているさまざまな方法を取り上げ説明を加えることにあるが，それとあわせて，人間の生涯発達を研究するために有効な社会調査法についての検討も試みることにしたい。

社会調査法Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　野嶋栄一郎

(1)測定の基礎理論，(2)測定の信頼性と妥当性，(3)尺度構成（順序尺度，間隔尺度，比例尺度，SD 法，一対比較法），(4)態度測定法（サーストンの態度測定法，リッカートの態度測定法，ガットマンの態度測定法），(5)標本抽出と標本調査法，(6)データ解析（重回帰分析，判別分析，因子分析，数量化理論），(7)行動科学における理論化とモデル構成

使用教科書　別途指定

〔参考書〕：『行動科学の方法』池田　央著（東大出版会）

社会開発論（昭和63年度開講科目）2単位　　店田廣文

社会開発は経済開発重視の政策への対抗的な概念として積極的に唱えられてきたもので，社会開発そのものは一般的には生活環境の整備，住宅，保健・医療・衛生や教育・文化など広義の社会の福祉水準向上や人間の能力向上を目的とするものである。この講義では社会開発の理論と実際の開発過程について，住民参加の問題や社会開発のための認識・予測・評価・計画に関わる社会指標の考え方もとり入れながら，論じていくことにしたい。

コミュニケーション論（昭和63年度開講科目）2単位　　臼井恒夫

コミュニケーションといえば，通常それは思想の伝達ないし交換を意味し，あるいは思想の交換にもとづき成立する一定の社会関係を意味している。したがって社会学的立場からのアプローチでは，記号過程論よりも社会関係論としてのコミュニケーション論に比重がおかれることになる。本講では，「地域社会の変容とコミュニケーション」というテーマを設定して，現代の地域社会をとりまくさまざまのコミュニケーション状況に言及してみたい。

余　暇　論（昭和63年度開講科目）2単位　　長田攻一

残余的な意味合いを含む日本語の「余暇」の概念も，近代化，都市化，大衆化，脱工業化などと呼ばれる社会の歴史的変化とともに，仕事，家族，教育，文化，階級などとの関連の中で再規定を余儀なくされている。このような「現代社会における余暇」の問題を，超歴史的な「遊び」の概念や歴史的な「スコーレ」の概念，さらには新たな人間観，価値観との関連に注目しながら，現代人および現代社会の意味付与の観点から考察する。

教育心理学Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　野嶋栄一郎

(1)学習の理論（学習とは何か，人間の情報処理，学習に影響する心理的要因，学習と環境，学習と個人差），(2)教授＝学習過程（プログラミングの理論，授業のモデル，教授＝学習システム），(3)児童生徒理解の理論（つまずきと学習，動機づけ，言語発達，認知発達，社会的発達），(4)教育目標と評価の理論（教育目標の分類学，形成的評価他）

使用教科書　別途指定

〔参考書〕：『授業改革事典』第1巻（第一法規出版）

環境心理学Ⅰ（昭和63年度開講科目）2単位　　相馬一郎

環境と人間の係りあいを中心として述べる。ここでは，環境心理学の基礎的なことを，まずとりあげる。

環境の認知の仕方，環境心理学の考え方，認知と行動などが主なものである。

環境は大別して物理的・自然的環境と社会的環境があるが，その中での人間行動がどうなのか，といったことからみていくことになる。

造形心理学（昭和63年度開講科目）2単位　　相馬一郎

人間は周囲から情報をとり入れ，判断・評価をし行動しているといってよかろう。造形心理学では，特に視覚的な側面に重点をおき，物のみえ方・感じ方・評価といったことを取りあげる。

対象をどうみるか，どう評価するかということはデザインの問題とも密接に関連する。ここではこれらの問題にも関連づけていくつもりである。

組織心理学（昭和63年度開講科目）2単位　　橋本仁司

集団や組織という人間的環境の中で人間がどのように思考し，感じ，行動するかについての多くの事実が知られ，それをどのように解釈すべきかの諸説が提唱されている。それらを整理することによって人間的環境の典型の一つである組織の中での人間のあり方を考えてみる。これが本講のテーマである。

人間行動と環境(医)Ⅰ（昭和63年度開講科目）２単位　　黒　田　　勲

人間のおかれる生活環境，作業環境について，環境条件が人間行動に与える基本的影響について述べる。

空間，時差および単調を含む時間，酸素および圧力，温度，湿度，重力および加速度，光，騒音，衝撃および振動，放射能，一般的有毒物質，人体サイズ等の物理，化学的環境条件，さらに人間社会環境条件が行動に及ぼす変化について講義する。

人間行動と環境(医)Ⅱ（昭和63年度開講科目）２単位　　黒　田　　勲

生活環境における健康，作業環境におけるパホーマンスに影響する因子について，仕事，仕事環境，人間関係，これらの管理を含めた外的要因，心理的および生理的ストレスサー，個人特性による内的要因，人間―機械インターフェイス，自動化等，総合的観点から検討を加える。さらに緊急事態，強度ストレス環境，航空宇宙環境等の特異環境における人間行動を含めて講義する。

心理検査法Ⅰ（昭和63年度開講科目）２単位　　冨　田　正　利

人格の評価法として最も一般的な質問紙法について概観し，その代表的なものについて，体験を通して理解を図る。質問紙法とは人格に関わりのある，人間の行動や考えなどの叙述の目録を作り，これが個人に該当するかどうかをチェックさせることによって人格を知ろうとする方法であり，ここでは MMPI, CPI などを取り上げる。

心理検査法Ⅱ（昭和63年度開講科目）２単位　　冨　田　正　利

質問紙法に対置する人格評価法として広く利用されている，ロールシャッハ，TAT などの投影法について概説し，２，３の方法について実習をまじえて紹介する。投影法は多義的な刺戟に対する反応を，身につけた分類法の知識に照らして分析せねばならないので，その実施に当たって既にその方法に通暁していなくてはならない。したがって，実習がかなりの部分を占めるであろう。

行動検査法（昭和63年度開講科目）２単位　　坂　野　雄　二

人間の行動や情動（生理的反応を含む）を客観的に査定するための方法論について，その基礎理論と実際について概説を行う。また，代表的な行動検査法に関しては，その実施と評価の方法について実習も併わせ行いたい。テキスト等は追って連絡する。

行動療法Ⅰ（昭和63年度開講科目）２単位　　坂　野　雄　二

学習心理学の原理を人間の情動や行動の変容に応用した治療技法体系が行動療法である。本講では，行動療法の原理，歴史，代表的な技法について概説を行い，行動療法の概

略を把握するとともに，行動療法による臨床の基礎的な知識を習得する。使用する教科書および参考書は追って連絡する。

行動療法Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　坂野雄二

行動療法の最近の動向である「認知的行動療法」の基礎と応用について概説するとともに，症例研究を通して，行動療法における「言語の機能」について論究する。また，行動療法の基礎となる「実験臨床心理学」の方法論について講義を行う。本講の受講者は，「行動療法Ⅰ」を受講していることが望ましい。テキストおよび参考書は追って指示する。

心理療法Ⅰ（昭和63年度開講科目）2単位　　門前　進

心理的な悩みを解決するため，心理療法が現実に用いられている。しかし，基本は人間理解である。人間を理解しようとするとき，その人の行動に重点を置くもの，言葉に重点を置くもの，身体感覚に重点を置くもの，イメージに重点を置くもの，また，意識に重点を置くもの，下意識に重点を置くもの，無意識に重点を置くものなど様々である。これらに共通する点に重点を置いて話していく。

心理療法Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　門前　進

様々な心理療法が現実に用いられているが，「心理療法Ⅰ」で話した，様々な人間の理解をもとにして，実際にはどの様に心理療法が行われているかについて話していく。様々な心理療法全般について話すことは不可能なので，その中の代表的な技法，また，私の理解できている技法について話していく。催眠療法，精神分析，イメージ療法等が中心になる。

行動医学Ⅰ（昭和63年度開講科目）2単位　　黒田　勲

人間の感覚特性，知覚情報伝達過程における変容，大脳中枢処理，遠心性情報伝達経路と効果器特性について基本的行動原則を定性的および定量的に把握する。

さらに行動原点となる各種大脳皮質の作用メカニズムを発達史的に考察し，本能行動，情緒に基づく行動の特性，意識，疲労，睡眠等の行動様式を医学面に主点を置いて講義する。

行動医学Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　黒田　勲

「行動医学Ⅰ」を基礎として，年令変化に伴う生体機能と行動変容，とくに高年令化による精神，心理面と行動面の変化について述べる。

各種ストレスに関連する人体のホメオステイシス，ホルモン系の平衡と行動の関連性，教育訓練に関連する情報処理のメカニズム，各種薬剤，有毒物の行動に及ぼす影響，心身

医学および精神医学面から見た行動変容について講義する。

学校カウンセリング（昭和63年度開講科目）2単位　　菅野　純

カウンセリングや精神分析，分析心理学，グループ・ダイナミックスなど，教育の分野とつながりの深い諸理論をふまえて，(1)学業不振，無気力，登校拒否，非行など，子どもの不適応行動への治療・教育の方法，(2)子どもの行動の理解方法，(3)子どもや親との個別的及び集団的カウンセリングの方法，(4)子どもや教師の自己啓発のためのエンカウンター・グループの方法，などを，事例を教材として講義する。

比較文化論　2単位　　蔵持不三也

ひとつの文化的事象には，つねにそれを成立させる技術や知識，伝統，展望，関連性といったコンテクストが伴う。こうした事象から構成される《文化》をとらえるのは，したがってかなりの困難を覚えるものであるが，本講ではヨーロッパ，とくにフランスと我が国の民衆生活に視点を据え，異文化理解の一方法である比較という作業によって，彼我の文化のアイデンティティを追求し，さらに歴史の浅い比較文化の学問的有効性などについても考えていきたい。

栄養学　Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　太田冨貴雄

人間は食物から各種の栄養素を摂り入れ，それを体内で様々に変化させて成長・発育し，また生命維持や活動に必要なエネルギーを獲得している。栄養素の質・量が不均衡な食事を長く摂り続けていると，生体の代謝や生理機能が損われて不健康な状態におちいる。本講義では，摂取した栄養素が消化・吸収を受けて体内で利用・排泄される迄の過程，各種栄養素の生体機能や健康指標におよぼす効果など栄養学の生理学的側面を主体に論じる。

人間工学　Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　野呂影勇

人間工学を企業や研究所で行っている実例についていくつか紹介する。すなわちオフィスにおける計算機の利用における健康上の諸問題，生産性とハイテクノロジーそして幾つかの工業デザインについてとくに人間の構造と機能と関連させつつ述べる。次に会社の活動，特に研究開発，設計，安全衛生での人間工学の実施例と方法について紹介する。病院とくに看護作業の人間工学についてのべる。人間工学の情報学的側面についても述べる。

〔参考書〕：野呂影勇著『職場の人間工学』（中央労働災害防止協会）（1986）
野呂影勇・松田明子著『看護の人間工学』（広川書店）（1987）

特論　Ⅲ（学校カウンセリングの諸問題）（昭和63年度開講科目）2単位
小泉英二

学校や専門の相談機関でカウンセリングを実践していく場合，さまざまな疑問や問題に

遭遇する。これらを大別すると，Ⅰ　原理，理論的問題，Ⅱ　方法，技法上の問題，Ⅲ　実際的な問題，Ⅳ　カウンセラーの資質・研修の問題などに別れるが，それぞれの領域で，実践上のレベルの問題から入って，本質的な問題へさかのぼって考究していきたい。

問題意識をもって積極的に考え，討論しようとする心構えのある学生の参加を望む。

特　　論　Ⅳ（教育工学）（昭和63年度開講科目）2単位　　野　嶋　栄一郎

教え，学ぶという教育環境に関する研究は，従来ややもすれば理念の提起に終止しがちであったが，最近急速に，現実性，具体性及び多様性を帯び新しい展開を示してきている。ここでは，複雑な様相を呈する現代の教育問題の解決や研究のあり方に，教育工学を中心とする新しい教育研究の波が何をなし得るか論じる。

教科書は別途指定

〔参考書〕：『授業改革事典』(Vol. 1～3)

専門教育科目（スポーツ科学科　必修）

スポーツ社会学（昭和64年度開講科目）2単位　　宮内孝知

スポーツは現代社会において極めて大きな，かつ，重要な意味を持つ社会現象である。それは一つの文化として大きな勢力を持っているばかりでなく，政治や経済と密接な関係にあり，そこに社会学的理解の必要性と意義がある。本講義では，スポーツの社会的な意味と価値，その機能などについての基礎的理解を得ることをねらいとしている。

〔教科書〕：『スポーツ社会学講義』（大修館より62年度中に出版される予定）

スポーツ情報論（昭和63年度開講科目）2単位　　中条一雄

情報化時代の今日，一瞬にして世界を駆けめぐる情報に，スポーツも大きな影響を受けている。そのかかわり合いを次の網目で追及してゆきたい。①スポーツの発達とマスコミ②情報とスポーツ企業③スポーツ・マスコミの歴史と現状④マスコミの実像と虚像，情報操作⑤マスコミの行き過ぎの弊害⑥情報仕掛け人，スポーツ記者の実態⑦日々報道される新聞テレビの情報分析⑧スポーツ情報の読み方—真実とは何か。

スポーツ文化論（昭和63年度開講科目）2単位　　寒川恒夫

人類の諸社会（わけても自然民族の社会と伝統的社会）におけるスポーツ現象を文化人類学の手法によって分析し，スポーツと文化の基本的な諸関係について論じる。

スポーツ経営学Ⅱ（昭和64年度開講科目）2単位　　梅澤宣雄

スポーツ経営学とは何か。その意義と，理論体系について，組織論，経営過程論，行動科学等に依拠しながら概説する。

社会調査（昭和64年度開講科目）4単位　　千石保

国・地方公共団体・企業などが，政策を決定するためには，国民や消費者などのニーズを把握する必要がある。

社会調査は，この世論や消費傾向などを探ぐるための手段である。本講座では，調査課題と仮設の設定，統計的調査法，事例的調査法，などの理論を学習するほか，典型的な政治に関する世論調査，商品開発のための，いわゆるマーケット・リサーチなどのケースを取りあげて，実践をも学ぶ。

スポーツ心理学（昭和64年度開講科目）2単位　　上田雅夫

スポーツ心理学の学問としての体系づけには，いくつかの立場がある。本講義では，心理学の科学的方法によって体育・スポーツ事象の諸問題がいかにとらえられるかを究明する立場をとっていきたい。主な問題領域としてはつぎのものを予定している。(1)スポーツ行動の本質，(2)運動・競技の適性，(3)トレーニングの諸問題，(4)競技力について，(5)緊張異常とその対策。

バイオメカニックスⅡ（昭和64年度開講科目）2単位　　永田晟

多くの基本運動とスポーツ活動を解剖学と力学的な面から分類し，それぞれの運動メカニズムを講義する。

(1) 基本運動の分類と人体解剖図
(2) スポーツ活動時の骨・筋，靱帯，神経，血液の働き
(3) バイオメカニックスの研究方法
(4) 運動神経機構と神経支配
(5) キネテックな解析例
(6) キネマテックスな解析例
(7) 動きのエネルギー効率
(8) バイオ・フィードバックの応用
(9) パワーの出し方
(10) 各種運動方程式と生体工学

体力トレーニング理論・実習（昭和63年度開講科目）2単位　　加藤清忠

体力とは何かとの基本的な理解の上に，体力養成ムーブメントの歴史的背景や現況に触れるとともに，体力の維持と向上に必要なトレーニングの原則や具体的な方法について解説する。実技演習ではウェイトトレーニングを中心に進めている。したがって，一般的にバーベルやダンベルを用いたトレーニングを行うが，必要に応じマシンによるトレーニングをも実施したい。

演　習　Ⅰ（バイオフィードバック法と行動療法）（昭和63年度開講科目）4単位
児玉昌久

生体情報を外部刺激におきかえてフィードバックし，心身を自ずから制御することを目指すバイオフィードバックは，行動理論に基づく方法で行動の改善を試みる行動療法の一つである。行動理論の基礎となる考え方や，バイオフィードバック手法の理論についての文献講読を中心に，基本的な生理指標についてのバイオフィードバックを実際に体験しながら，心身の自己制御の意味や可能性について考えてゆく。

演　　習　Ⅰ（精神生理学・生理心理学の発展）（昭和63年度開講科目）4単位

山　崎　勝　男

この演習は，精神生理学を勉強するに際しての，基礎的な諸問題を主題とする。内外の代表的な論文を講読する。受講者は，「精神生理学及び実習」を履習していることが，望ましい。

演　　習　Ⅰ（運動と代謝）（昭和63年度開講科目）4単位　　村　岡　　功

本演習では，運動生理学に関する専門書（英文）を輪読しながら，運動を生理学的に把握するとともに，運動生理学およびスポーツ生理学における基礎的な測定技術を習得する。

演　　習　Ⅰ（スポーツの民族学的考察）（昭和63年度開講科目）4単位

寒　川　恒　夫

自然民族の社会と伝統的社会におけるスポーツを報じ，あるいは論じた外国語諸文献の講読を通して，世界各地に伝承される民族スポーツ ethnic sport と，その文化的背景とについて学ぶ。テキストはそのつど指示する。

演　　習　Ⅰ（スポーツ社会学演習）（昭和63年度開講科目）4単位

宮　内　孝　知

スポーツ及び社会科学に関する文献をできるだけ広く講読し，スポーツの社会学的理解に必要な基本的態度や知識を高める。いわば，社会とスポーツの関係を様々な角度から検討しながら，「スポーツ社会学とは」という問題に，自分なりの解答を得られるようになることをねらいに演習をすすめることになろう。

従って，幾つかのサブグループに分かれての討論・発表なども一つの方法であると考えている。

演　　習　Ⅰ（衛生学演習）（昭和63年度開講科目）4単位　　町　田　和　彦

将来環境保健（公衆衛生）に興味をもつ学生が一応どの領域にも進めるように最低限度の基礎的知識と実験的手技を身につけるためのトレーニングをおこなう。前期は和文論文を中心とした抄読と講義をおこない，後期は実習を主体とする。実習項目は水質検査，臨床生化学検査，微生物学・免疫学的検査，物理・化学的環境測定，元素分析等を予定，又いくつかの研究所の見学も予定している。

演　　習　Ⅰ（リハビリテーション理論と方法）（昭和63年度開講科目）4単位

比　企　静　雄

専門教育科目の「リハビリテーション」の内容を前提として，各種の障害のうちでとくに肢体不自由を対象にして，その一時的・長期的な障害に対する運動機能の回復のための，効率のよい検査・訓練の手順についての理論的な考察，および活用できる機器・システムの具体例についての検討をする。

演　　習　Ⅰ（地域・職場等におけるスポーツ経営）（昭和63年度開講科目）4単位

梅　澤　宣　雄

スポーツ経営学の基礎理論を，より深く理解するため，文献の研究を中心に行う。

演　　習　Ⅰ（スポーツ法学演習）（昭和63年度開講科目）4単位　濱　野　吉　生

この演習は，スポーツ法学の全体を把握するとともに，その研究手法を習得することを目的として進めていく。

したがって，授業の前半は，スポーツ法学そのものの理解に重点を置き，後半は，報告・討議を交えつつ，具体的な事例・判例を取り上げていきたいと考えている。

参考書等については，授業中に指示する。

演　　習　Ⅰ（バイオメカニックス）（昭和63年度開講科目）4単位

鈴　木　秀　次

主に陸上競技との関連性に留意しつつ，〔筋肉の働き〕を演習によって理解，把握させる。

演　　習　Ⅰ（健康と運動）（昭和63年度開講科目）4単位　宮　崎　正　己

健康なからだや体力の増進と表裏一体である疲労についておこなう。必要に応じて実習もおこなう。

演　　習　Ⅰ（運動学演習）（昭和63年度開講科目）4単位　塚　脇　伸　作

各種スポーツにおける運動特性，運動発達，運動類系，運動方法について次のような演習を行う。

1. 運動学に関する問題意識の喚起
2. 運動学に関する内外の文献講読を通じて現存する運動学的問題点の考察
3. 運動学（運動形態学）的研究法についての実際
4. 各自の研究課題設定のための準備

演　　習 Ⅱ（バイオフィードバック法と行動療法）（昭和64年度開講科目）

4単位　　児 玉 昌 久

「演習Ⅰ」に引きつづき，心身のセルフコントロールを扱うが，単に障害や行動異常の治療法としてではなく，リラクセーションによるストレスへの対応や，身体運動の技術習得法としてのバイオフィードバック法の理解を，各種生理指標に関する諸研究の講読と併せて深めてゆく。また，生理指標以外の行動的指標などを用いてのバイオフィードバック訓練の可能性についても，実験などの体験を通して検討してゆく予定である。

演　　習 Ⅱ（精神生理学・生理心理学の発展）（昭和64年度開講科目）4単位

山 崎 勝 男

「演習Ⅰ」（精神生理学・生理心理学の発展）で学習した基本的事項を，さらに深く追究し，この研究領域で現在何がトピックスになっているかを考察し，研究動向を探ってみたい。

演　　習 Ⅱ（運動と代謝）（昭和64年度開講科目）4単位　　村 岡　　功

「演習Ⅰ」の活動を基礎として，ここでは特にエネルギー出力に焦点を合わせ，その実験技術を演習する。また，継続して英文の輪読を行うが，「演習Ⅱ」では各自の卒論の研究テーマと関連の深い内外の論文を渉猟し，その内容を発表する。

演　　習 Ⅱ（スポーツの民族学的考察）（昭和64年度開講科目）4単位

寒 川 恒 夫

スポーツを民族学的に論じた諸外国の研究論文の講読を通して，スポーツ民族学の基本的諸概念と研究方法とを理解する。テキストはそのつど指示する。

演　　習 Ⅱ（スポーツ社会学演習）（昭和64年度開講科目）4単位

宮 内 孝 知

内外のスポーツ社会学の論文を広く読みながら，スポーツの社会学的理解を深めるとともに，基本的な研究方法の演習をする。また，この「演習Ⅱ」を通じて，多岐にわたるスポーツ社会学の研究領域から，自分の研究テーマを具体化していくことも必要であろう。

〔参考書〕：『体育・スポーツ社会学研究』（道和書院），『Sport and Social Theory』(HUMAN KINETICS), SSJ, IRSS 所収の論文等

演　　習 Ⅱ（衛生学演習）（昭和64年度開講科目）4単位　　町 田 和 彦

「演習Ⅰ」で身につけた基礎的知識と実験的手技をさらに充実させるとともに，研究能力の育成に重点をおく。前期は欧文論文を中心とした抄読と講義をおこない，後期は衛

生・公衆衛生学上のいくつかの研究テーマのうちから，又は各人の考えた研究テーマ等で自分の将来の方向にあったテーマを選び，問題解決能力を養う。さらにこのテーマを深め，卒論につなげていくことが望ましい。

演　　習　Ⅱ（リハビリテーション理論と方法）（昭和64年度開講科目）4単位

比　企　静　雄

専門教育科目の「リハビリテーション」の内容を前提として，「演習Ⅰ」（リハビリテーション理論と方法）と相補うもので，視覚障害に対する視覚機能や歩行機能の回復と，聴覚障害・言語障害に対する聴覚機能や発声・発語機能の回復のための，検査・訓練の手順の理論的な考察と機器・システムの具体例の検討をする。

演　　習　Ⅱ（地域・職場等におけるスポーツ経営）（昭和64年度開講科目）

4単位　　梅　澤　宣　雄

スポーツ経営の実践領域である，学校，地域，職場，商業施設等に関する先行研究に資料を求めながら，スポーツ経営学について研究討議する。

演　　習　Ⅱ（スポーツ法学演習）（昭和64年度開講科目）4単位　濱　野　吉　生

この演習は，「演習Ⅰ」（スポーツ法学演習）を踏まえ，報告・討議を交えながら，スポーツ法学のより高度な理解と研究手法の習得を目的として進めていく。

参考書等について，授業中に指示する。

演　　習　Ⅱ（バイオメカニックス）（昭和64年度開講科目）4単位

鈴　木　秀　次

スポーツ活動における運動制御とバイオメカニックスに関する論文，参考書を読ませ，課題に対し，文章作成方法の涵養に務める。

演　　習　Ⅱ（レクリエーション理論と方法）（昭和64年度開講科目）4単位

吉　村　　正

レクリエーションの基本となる演習とその基礎的手法の実習を行う。

テキストは未定

演　　習　Ⅱ（運動学演習）（昭和64年度開講科目）4単位　　塚　脇　伸　作

「演習Ⅰ」（運動学演習）に引き続いて，一層の充実を図るために次のような演習を行う。

1. 各自の研究課題を設定し，そのための文献収集とその考察
2. 各自の研究課題に応じた研究法の実際による記述資料作成とその考察

3. 各自の研究課題の研究報告とその討議
4. 反省と卒業論文作成のための準備

専門教育科目（スポーツ科学科　選択）

※開講年度の表示のない学科目は，すべて本年度（昭和62年度）開講科目

社会構造論（昭和63年度開講科目）2単位　　濱口晴彦

社会構造の概念は，人間の社会的存在を理解する前提の一つである。このことについて，日本の新中間層の形成，発展，そして現在の諸相を，演習形式をとり入れ，理解を深めていくよう試みたい。

スポーツ経営学Ⅰ（昭和63年度開講科目）2単位　　梅澤宣雄

「スポーツ経営学Ⅱ」が，経営理論全般に亘る概論であるのに対し，この科目は，専ら学校におけるスポーツ経営（体育経営・管理）の問題に限定するものであり，いわば各論（領域論）の一つであるといえよう。従って，この科目を選択履習する者は，あらかじめ，「スポーツ経営学Ⅱ」を修了していることが望ましい。

特に，教員免許を取得しようとする者にとっては，必須の科目であることに，注意されたい。

社会調査・実習（昭和64年度開講科目）2単位　　千石保

社会調査は，研究課題の設置，調査仮設の設定，調査票の作成，フィルドワーク，統計的処理，データ分析の手順で進められる。

本講では，これらの手続きを，学校内におけるさまざまな病的問題，教育制度や社会構造，青年の労働観，政治意識，家庭における親子関係や人間関係，商品開発などのマーケットリサーチなど，具体的問題について実践する。

コミュニティ論（昭和63年度開講科目）2単位　　岡野静二

まずコミュニティとは何かを，基本的に理解する。そして日本にふさわしいコミュニティの概念を把える。その概念にてらして，日本の過去の地域社会に存在していたが現在失っているもの，現在の地域社会で始めて得たものなどを考える。そしてコミュニティ形成に必要な条件とは何かを知る。行政の役割，住民運動，ボランティア活動などについて，現情を把握し，それらの意義と役割について明らかにする。

スポーツ法学（昭和63年度開講科目）2単位　　濱野吉生

ここではまず，スポーツ法学の基礎理論と構造について説明し，次に，スポーツ法学が直面している具体的な問題を適宜取り上げていきたいと考えている。

参考書等については，授業のはじめに指示する。

スポーツ行政論（昭和63年度開講科目）2単位　　深川長郎

1. 世界のスポーツ組織＝民間組織としての国際機構論　2. 日本のスポーツ行政＝中央，地方の教育行政の中での位置づけ＝スポーツ組織構成論　3. 行財政とスポーツ界　4. スポーツ関連の諸法律，条令，政令，省令についてその成立の裏付け　5. オリンピック憲章，アジアオリンピック評議会憲章，国際大学スポーツ憲章，ユネスコスポーツ憲章各論　6. 将来のスポーツ界の形態の見通しについて。

公衆衛生学Ⅰ（昭和63年度開講科目）2単位　　町田和彦

衛生学・公衆衛生学の基礎的事項をマスターするために教科書を中心とした授業を行う。教科書は当分の間『簡明衛生公衆衛生』（南山堂）を用いる。

内容は衛生・公衆衛生の歴史，疫学方法論，感染症の疫学と予防，環境衛生（空気と健康，水と健康，温熱環境と健康，生気象），公害，栄養と食品衛生，母子保健，成人保健，産業衛生，地域保健，人口問題と衛生統計，衛生行政等の項目についておこなう。

公衆衛生学Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　町田和彦

「公衆衛生学Ⅰ」により学んだ基礎的事項の応用編として各時間一テーマごとの特論形式で，近年問題となっている衛生公衆衛生上のトピックスをまじえ，スライドを中心とした授業をおこなう。内容は微量元素の生体内相互作用，カドミウムの健康障害，薬害，食品添加物，Circadian Rhythm，季節と健康，最近の感染症，肝炎の疫学，AIDS と ATL，最近の国民衛生の動向，地域保健の実際等を予定している。

生理学（昭和63年度開講科目）2単位　　吉岡亨

運動の生理学全般について講義する。内容は興奮，収縮，疲労，自律神経系，小脳，運動と緊張，呼吸，心臓，体温，性徴などに分かれている。ヒトは何のために運動するのか？　運動することによりヒトの体内では何が起るのか？　といった基本的な問に答えると共に，(1)男女では運動機能に差がある理由　(2)“あがる”という現象　(3)運動機能はどこまで上昇可能か？　といったような疑問を解決するには，何が分らなければいけないかを平易に解説する。

衛生学（昭和63年度開講科目）2単位　　中原英臣

衛生学は，文字通り“生を衛(まも)る”学問である。

環境問題，人口問題，高齢化社会，医療問題，公害，国民栄養，産業保健と我々をとりまく衛生学的テーマは沢山存在する。こうしたテーマは社会と深くかかわっているために，常に今日的視点で問題をみつめなくてはいけない。こうした立場で講義を行いたい。

運動生理学（昭和63年度開講科目）2単位　　村岡　功

運動と関連深い生理的機能は，主に運動を支配する神経系および内分泌系，運動を発現する骨格筋系，ならびに運動を持続する呼吸循環系である。

ここでは，これら生理的諸機能に焦点を合わせ，一過性の運動およびトレーニングによる影響について言及する。

バイオメカニックスⅠ（昭和63年度開講科目）2単位　　鈴木秀次

走，跳，投運動において，より速く走ったり，より高く跳んだり，さらにはより遠くへ跳んだり投げたりする動作に関わる基礎的な神経性の調節機構について解説する。（「人間の構造と機能」，「バイオメカニックスⅡ」の科目を履修しておくこと。）

身体形態学（解剖学を含む）（昭和63年度開講科目）2単位　　加藤清忠

本講座はヒトの身体の形態に関する理解を深めようとするものであるが，内と外との両側面から概説する。内からとは解剖学的立場であり，身体の基本構造から骨や筋を中心とした運動器官系まで言及する。外からとは体育学的・人類学的立場であり，発育段階に応じて身体比例や体格・体型に関して述べる。

リハビリテーション（昭和63年度開講科目）2単位　　比企静雄

運動機能・感覚機能の先天的・後天的な障害の全般にわたって，基本的な検査・診断の方法，補償あるいは代行の可能性，機能回復の訓練の方法，検査・訓練のための機器・システム，補装具や人工の手足・感覚器の活用などについて，主としてリハビリテーション工学の見地から概説する。

精神生理学及び実習（昭和63年度開講科目）3単位　　山崎勝男

精神現象の生理学を中心に講義する。睡眠・夢，精神活動，情動などに随伴する生体の電気活動を，ポリグラフ的な視点から解説する。ポリグラフィの代表的な指標を用いた，モデル実習も随時挿入して，授業内容の理解を，さらに深めてもらう予定である。

音楽理論・実習（昭和63年度開講科目）2単位　　大池美智子

講義では，さまざまなジャンルの音楽に目を向け，広い視野からとらえた音楽と，スポーツやダンスとの関係について概説する。

実習では，次のような内容を予定している。

1. リズム・トレーニング
2. 鑑賞によるイメージ・トレーニング
3. レクリエーションのための合唱と合奏

4. やさしい打楽器の奏法と応用法
5. 動きのための「音」えらびと「音」つくり

学校保健Ⅰ（昭和63年度開講科目）2単位　　坂口早苗

学校保健は，保健管理と保健教育に大別される。保健管理は，主に学校保健法にもとづいて行われる管理活動であり，保健教育は主として学校教育法にもとづく教育活動である。

学校保健法と保健教育の概要について講義をしていきたいと思う。

学校保健Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　坂口早苗

児童・生徒・学生および幼児に多くみられる疾病異常の各論にふれ，また健康に学校生活を送るための学校環境衛生について講義をしていきたいと思う。

スポーツ工学Ⅰ（昭和63年度開講科目）2単位　　池原義郎

スポーツ工学Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　比企静雄

専門教育科目の「スポーツ工学Ⅰ」と相補う内容のもので，感覚情報の検知と運動機能の制御との結合機構のスポーツにおける役割にとくに注目して，人間の運動機能についての生体工学的な計測・解析の手法，および計算機シミュレーションのためのモデル化の手法を説明する。

スポーツ方法論・実習（体操）2単位　　〈体操Ⅰ〉中村　茂

体操は身体のいろいろな要素や作用をよりよくするための身体運動，という原理的な意味を含めた目的規定の見地に築かれた身体運動との見解と，同時に他のスポーツや体育運動の基本原理的な身体運動としてとらえ，「スポーツ方法論―体操―」の予習内容を設定してみた。

主として徒手体操を中心とし，その構成や個々の動作を始め，秩序運動，組み体操，集団体操，手具，器機器材を使用した運動などを実習教材として，効率的な動きづくり，身体づくりの予習としたい。

〈体操Ⅱ〉船戸徳郎

体操Ⅱは，学校体育において必修であり，個人的スポーツの一つである「器械運動」領域を扱う。この領域のねらいは，克服的スポーツとフォーム達成的スポーツの特性を生かして，個人の能力に応じた課題を解決することであり，その学習過程でスポーツの喜びや楽しさを経験させることである。

具体的な器械種目としては，

1. マット運動

2. 跳び箱運動
3. 鉄棒運動
4. 平均台運動
5. その他トランポリン等

を扱い，その理論と実習を行う。

なお，これらの基本技の習得・習熟とともに学習者側の立場のみでなく，指導者側の立場での指導法の経験をさせる。

スポーツ方法論・実習（陸上）2単位　〈陸上Ⅰ〉鈴木秀次

トラック種目のうち主に短距離，ハードル種目での技術面を中心に，特にスピードを増大させるための合理的な身体の動きについて，その科学的根拠がどこにあるかを，主に運動制御とバイオメカニックスの知識を用いてやさしく解説し，さらに，実習では理解した科学的知識を実際に応用し，技術的側面でのすみやかな向上がみられることを体験させ，短距離の練習においてはトレーニング面ばかりでなく身体運動の機能的側面を考慮した反復練習が特に大切であることを力説する。

使用教科書，参考書等については，最初の授業で案内する。

〈陸上Ⅱ〉鈴木秀次

フィルド種目のうち主に走り幅跳び，走り高跳び，砲丸投げについて，ここでも特に技術面を中心に，より遠くへ跳んだり，投げたり，またはより高く跳ぶための身体動作がどのような科学的根拠に基づいてなされているのかをやさしく解説し，さらに，実習では，理解した科学的知識を応用し，実際に反復練習によって技術の向上がみられることを体験させ，科学的知識の陸上競技への導入が如何に大切であるかを力説する。

使用教科書，参考書等については，最初の授業で案内する。

スポーツ方法論・実習（球技Ⅰ）（昭和63年度開講科目）2単位

〈バレーボール〉矢島忠明

バレーボールは，学校体育の教材ならびに部活の一つとして重要な役割を果している。と同時に社会スポーツ，職場スポーツとしても広く愛好されている。さらにまた，国内・外ともに，ポピュラーな競技スポーツとしても目ざましい進展を遂げている。このようにバレーボールが幅広く活用されてきているのは，総合的な体力を高めながら，ボールコントロール，ボディコントロールなどの能力を高めて，チームプレーに還元するコミュニケーションスポーツの役割をも果しているからである。

体育学を学ぶ者としては，理論的な裏づけを基に，基本動作及び技術を確実に身につけると同時に，バレーボールの効果的な指導の手順，方法を修得し，加えてルール，審判をはじめとして試合の運営等を学ぶことが極めて重要である。

教科書として，大泉書店発行の『バレーボール』を使用する。

〈バスケットボール〉 五 三　　健

バスケットボールの技術構造を理解しながら，ゲームに必要とする基礎技術，応用技術を習得することを目指す。

本授業はゲームを中心に展開し，そのゲームの様相から練習課題を見付け出すことにより，個人的技能および集団的技能の向上を計り，指導方法についても理解を深める。

〔テキスト〕：伊藤順蔵・五三　健著『バスケットボール上達法』

スポーツ方法論・実習（球技Ⅱ）（昭和63年度開講科目）2単位

〈ラグビー〉 日比野　　弘

ラグビーはチームスポーツである。15人のメンバー全員が，ルールと攻防理論を熟知し，自らの役割をまっとうしたときに，勝利の喜びを味わうことができる。

この講座では，ラグビーの専門的知識と，個人の技術水準を高め，あわせて将来役立つ指導法を身につけることを目的とする。

技術の上手，下手にかかわらず，スキルの向上を目指すもの，レフリー，コーチを志望するもの，教員としてラグビー経験をとり入れようとするものなど，ラグビーに関わりを持つ，巾広い層に受講してほしい。

理論の実践を中心に実技指導を行うが，雨天の際には，ラグビーの歴史，戦術論，ルール解説，ゲーム分析など，ビデオを併用して講義する。

（初回はオリエンテーション。筆記用具持参）

〈サッカー〉 加 藤　　久

本授業においては，サッカーを行う上で不可欠な技術，戦術，体力の三つの要素を個々に分析し，その内容，能力の高め方，相互の関連性についての理解を深める。また，それをプレーとして表現できるように実技を行っていく。

さらに，サッカーのルールや試合の進め方，歴史と現状，スポーツの中でのサッカーの位置づけ，サッカーの教育的価値などについての講義も合わせて行う。

スポーツ方法論・実習（格技）（昭和64年度開講科目）2単位

〈柔　道〉 小野沢　弘　史

柔術から発展した柔道は，日本民族の生んだ世界に誇るべきスポーツ文化の代表である。

現代スポーツとしての柔道の理論ならび実技を学びながら，柔道の根源を追求してその背景を求め，スポーツとしての意義を考究する。

〈剣　道〉安　藤　宏　三

竹刀を媒体とした打つ，突く，捌く等の対人攻防技能の習得を通して剣道の理解を深める。

男女共に初心者は基礎から導入し，簡易な試合や審判ができるよう指導する。

準備するもの

- 服装　剣道着，袴（長袖シャツ，長ズボンまたはトレーニング・ウェア上下でも可）
- テキスト：安藤宏三著『目で見る剣道上達法』（成美堂出版）
- その他　手拭，ゼッケン

スポーツ方法論・実習（ダンス）2単位　　山　本　数　子

基礎的な身体の動きからダンスに必要な表現法を体得し，リズム感を養い思想感情を自由に表現出来る身体づくりをし，更に動きと音との関係・構成等を学びながら，ダンス創作法及び各種ダンスを踊ることによって，それぞれのダンスの特性を知り，ダンスに対する視野を広め知識を深める。

- 服装　レオタード，ダンスシューズ

スポーツ方法論・実習（レクリエーション）（昭和64年度開講科目）2単位

〈レクリエーションⅠ〉角　田　真一郎

多様化する生活，余暇時間の増大，高令化社会へと進む21世紀を見つめ，学校・社会・地域・職域で余暇活動の善用が益々要求されている。

従って本来のレクリエーションの意義を生かす為に，主としてスポーツ教材を取り上げ，いかに効果的に領域や各層が，それぞれにおける活動の中で喜びや，楽しみを得られるかについて追求したい。

〈レクリエーションⅡ〉角　田　真一郎

「レクリエーションⅠ」の学習を基盤として，科学的な学研により，より習熟，充実を計り，グループによって軽スポーツを研究し，指導者としての資質を養う。

必要に応じて，アウト・ドアー・スポーツとしての野外活動も取り上げたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（水泳）（昭和64年度開講科目）2単位　　矢　野　正　次

体育・スポーツの指導者として，水中運動の一つである水泳は，欠くことのできない必須の条件と考える。単に泳げることばかりでなく各種泳法にも優れた技能と知識を持たなければならない。

当科目では，水上安全をふまえて水泳を総合的に研究，実習する。将来，学校体育・社会，職場体育の場は勿論その他の分野での実践を期している。

スポーツ特論・実習Ⅱ（水泳）（昭和65年度開講科目）2単位　　矢　野　正　次

「スポーツ特論・実習Ⅰ」（水泳）の修得者が対象であって，水上安全を中心に発展させていく。

スポーツ特論・実習Ⅰ（ウエイトトレーニング）（昭和64年度開講科目）2単位

窪　田　　登

ウエイト・トレーニングは，筋力やパワーを強化し，筋を肥大させるトレーニングである。すぐれた筋力やパワーが必要なスポーツ選手にとって，このトレーニングは必須である。

健康志向が高まった昨今は，ウエイト・トレーニングが一般市民の間にも静かに浸透しつつある。この授業では，ウエイト・トレーニングの基礎的な理論と主としてフリー・ウエイトを中心の実技を勉強していきたい。

スポーツ特論・実習Ⅱ（ウエイトトレーニング）（昭和65年度開講科目）2単位

窪　田　　登

本科目では，すでに「スポーツ特論・実習Ⅰ」で基礎的なウエイト・トレーニングの理論と実技を身につけているが，さらにこれに専門的なアプローチを試みる。

理論面では，ウエイトリフティング，パワーリフティング，ボデイビルディング，スポーツ選手の補強トレーニングについて，より深い研究を進めていく。また，実技面では，フリー・ウエイトの他にマシーンによるトレーニングの実践も深めていきたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（体操競技）（昭和64年度開講科目）2単位　　塚　脇　伸　作

学校体育における器械運動の発展である体操競技について次のような内容の理論と実習を行う。

1. 次の各器械種目に関する個人技能の確認
   (1) 男子‥床，鞍馬，吊輪，跳馬，平行棒，鉄棒
   (2) 女子‥跳馬，段違い平行棒，平均台，床
2. 個人技能に応じた技の習得と習熟
3. 演技の発表とその採点

スポーツ特論・実習Ⅱ（体操競技）（昭和65年度開講科目）2単位　　塚　脇　伸　作

「スポーツ特論・実習Ⅰ」に引き続いて，一層の充実をねらい，次のような理論と実習を行う。

1. より発展した技の習得と習熟
2. 指導法の問題点とその対策

3. 器械・器具の問題点とその対策
4. 審判法の問題点とその対策
5. 競技運営の問題点とその対策
6. その他，競技力向上に関する諸問題とその対策

スポーツ特論・実習Ⅰ（陸上競技）（昭和64年度開講科目）2単位　　阿　部　　馨

陸上競技の基礎技術をより高めると共に，指導法を深めるため，次のように実習する。
（教育実習及び公立学校教員採用試験に役立つ技術を中心とする）

1. トラック種目
2. フィールド種目
3. 陸上競技のトレーニング法
4. 児童，生徒の体力づくり

スポーツ特論・実習Ⅱ（陸上競技）（昭和65年度開講科目）2単位　　阿　部　　馨

将来，中学校，高等学校の教員を志望する者，及びクラブ活動の指導者を志望する者のために，種々の機器を利用し，陸上競技の高度の専門技術を実習する。

1. トラック種目
2. フィールド種目
3. 指導法
4. 審判法

スポーツ特論・実習Ⅰ（ダンス）（昭和64年度開講科目）2単位　　山　本　数　子

身体運動における表現の多様性と，リズム・音楽などを総合して創作へと発展させる。
服装　レオタード，ダンスシューズ

スポーツ特論・実習Ⅱ（ダンス）（昭和65年度開講科目）2単位　　山　本　数　子

「スポーツ特論・実習Ⅰ」を基として更に高度な技術を体得し，創作活動を主としながら，マスゲーム・フォークダンス等にも触れ広くダンスについての技術と知識を深める。

スポーツ特論・実習Ⅰ（柔道）（昭和64年度開講科目）2単位　　大　沢　慶　己

柔道の技能を高めるとともに，トレーニング法，コンディショニングなどの理論も併せて学ぶ。

スポーツ特論・実習Ⅱ（柔道）（昭和65年度開講科目）2単位　　大　沢　慶　己

柔道の技能をより高めるとともに，指導法，審判法などの理論も併せて学ぶ。

スポーツ特論・実習Ⅰ（剣道）（昭和64年度開講科目）2単位　　安　藤　宏　三

本講座では，将来，学校，地域及び各種の団体における剣道の指導者となることを目指す諸君を対象とする。正しい剣道技能の習得と試合・審判規則に関し理解を深めることをねらいとする。

準備するもの

◦剣道用具一式（剣道具，竹刀，剣道着，袴，手拭，ゼッケン）

◦テキスト：安藤宏三著『目で見る剣道上達法』（成美堂出版）

スポーツ特論・実習Ⅱ（剣道）（昭和65年度開講科目）2単位　　安　藤　宏　三

本講座は，「スポーツ特論・実習Ⅰ」（剣道）を履習した者を対象とし，更に高度な技能習得と合わせて，日本剣道形，指導法，審判法，大会の企画や運営の方法等についても学ぶことをねらいとする。

準備するもの

◦剣道用具一式（剣道具，竹刀，剣道着，袴，手拭，ゼッケン）

◦テキスト：『学校剣道指導の手引き』（文部省）

スポーツ特論・実習Ⅰ（レスリング）（昭和64年度開講科目）2単位　太　田　　章

本授業は，アマチュアレスリング競技について，FILA（国際アマチュアレスリング連盟）のルールに基づく，フリースタイルと，グレコローマンスタイルの理論及び実技を行う。

スポーツ特論・実習Ⅱ（レスリング）（昭和65年度開講科目）2単位　太　田　　章

本授業は，レスリング競技を，その技術論及びその体力論などに細分化し，また減量などによる調整をも含めて，応用としての理論及び実技を行う。

スポーツ特論・実習Ⅰ（ボクシング）（昭和64年度開講科目）2単位　白　鳥　金　丸

ボクシング本来の有り方を理論と実践で行う。その内訳は，

1. ボクシング概念
2. ボクシング教授法の手順
3. ボクシングの基本動作
4. ボクシング施設，装具，器具の取扱いと安全性について

などである。

スポーツ特論・実習Ⅱ（ボクシング）（昭和65年度開講科目）2単位　白　鳥　金　丸

「スポーツ特論・実習Ⅰ」（ボクシング）を基本に競技ルールの分析，コンディション

ニング，ボクシング技術，戦術等を含めた，年間プログラムの作成等を目的とする。
また，ボクシング競技の科学性を考え，体力測定，評価，実験等も併せて行う。

スポーツ特論・実習Ⅰ（野球）（昭和64年度開講科目）2単位　　西大立目　永

野球競技の基礎知識と基本技術の徹底した習得を目指して，それらの理解と技術習得の手法を実習する。

特に，「ルールあってのスポーツ」という厳然たるスポーツ成立の基本条件を踏まえて，野球規則書中の「プレイのルール」の学習にも重点を置き，その上で技術の習得の実習を行い，規則と技術の接点を探求することにも主眼を置きたい。

スポーツ特論・実習Ⅱ（野球）（昭和65年度開講科目）2単位　　西大立目　永

「スポーツ特論・実習Ⅰ」（野球）で学んだ基礎知識と基本技術を基に，それらを総合的な競技力として，どのように発展させていくのかという学習を行う。

特に，野球はチームスポーツであるという通常の観念を打破し，個人技という観点にも立って，個性尊重の総合競技力を身につける手法を探求しながら実習を重ねてみたい。

さらに，アメリカをはじめとする世界野球界の動向と思想をも論じながら，それらを実習に役立てる方法を模索してみたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（ソフトボール）（昭和64年度開講科目）2単位

吉村　正

ソフトボール特有の専門的技術であるウインドミル投法と左打者の反対打ちを習得させる。ただし，雨天の場合は，ソフトボールの本質や歴史，あるいは審判法や記録のとり方等を講義する。

〔テキスト〕：吉村　正著『ソフトボール教室』（大修館）

〔参考書〕：吉村　正著『現代スポーツコーチ実践講座15，ソフトボール』（ぎょうせい）

スポーツ特論・実習Ⅱ（ソフトボール）（昭和65年度開講科目）2単位

吉村　正

全国大会で活躍できる選手を育成する。合わせて，大衆スポーツの王者たるソフトボールの本質を正しく理解させる。

〔テキスト〕：吉村　正著『実戦ソフトボール』（大修館）

〔参考書〕：吉村　正著『現代スポーツコーチ実践講座15，ソフトボール』（ぎょうせい）

スポーツ特論・実習Ⅰ（テニス）（昭和64年度開講科目）2単位　　宮城　淳

近年，社会的な要請として積極的に『やるスポーツ』の必要性が高まり誰もが生涯を通じて楽しめるスポーツを身につけることが望まれている。テニスは老若男女を問わずしか

も国際性豊かな競技でありこれらの要請に応えるスポーツとして最適であり，この授業ではテニスを通じて人間資質を高めることを目的とする。内容としては基礎的な実技のレベルアップ，マナー，ルール，審判法の修得を目標とする。

スポーツ特論・実習Ⅱ（テニス）（昭和65年度開講科目）2単位　　宮城　淳

近年，社会的な要請として積極的に『やるスポーツ』の必要性が高まり誰もが生涯を通じて楽しめるスポーツを身につけることが望まれている。テニスは老若男女を問わずしかも国際性豊かな競技でありこれらの要請に応えるスポーツとして最適であり，この授業ではテニスを通じて人間資質を高めることを目的とする。内容としては高度な実技の修得と，初心者から中級者までの指導法の修得を目標とする。

スポーツ特論・実習Ⅰ（軟式テニス）（昭和64年度開講科目）2単位　林　敏弘

軽いゴムボールを使用し，ダブルスで試合を行うという軟式テニスの特性を理解し，基本技術であるグランドストローク，サービス，ボレー，スマッシュ及びその応用技術，さらには試合における戦法等について，実技と理論の両面にわたって学習をする。

スポーツ特論・実習Ⅱ（軟式テニス）（昭和65年度開講科目）2単位　林　敏弘

軽いゴムボールを使用し，ダブルスで試合を行うという軟式テニスの特性を理解し，基本技術であるグランドストローク，サービス，ボレー，スマッシュ及びその応用技術，さらには試合における戦法等について，実技と理論の両面にわたって学習をする。

スポーツ特論・実習Ⅰ（卓球）（昭和64年度開講科目）2単位　森　武

まず，理論的にも技術的にもできるだけ高度の次元に到達できることを目標としたい。

もちろん，目的やレベルによって多角的な指導法をとっていく。たとえば，レクリェーショナルな地域での指導法，学校体育の授業やコーチ・顧問としての指導法，さらには日本代表チームの指導者となる場合なども含めて考えている。その他，ルールと審判法，また大会運営法（公認資格取得を目的としたもの）など現実に役立つものもとりあげたい。

スポーツ特論・実習Ⅱ（卓球）（昭和65年度開講科目）2単位　森　武

まず，理論的にも技術的にもできるだけ高度の次元に到達できることを目標としたい。

もちろん，目的やレベルによって多角的な指導法をとっていく。たとえば，レクリェーショナルな地域での指導法，学校体育の授業やコーチ・顧問としての指導法，さらには日本代表チームの指導者となる場合なども含めて考えている。その他，ルールと審判法，また大会運営法（公認資格取得を目的としたもの）など現実に役立つものもとりあげたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（バドミントン）（昭和64年度開講科目）2単位

関　一誠

学校体育・社会体育の場で，初心者を対象とした指導法（導入・展開・応用）を講じ，バドミントン遊びからバドミントン競技まで各段階による実習を行う。

スポーツ特論・実習Ⅱ（バドミントン）（昭和65年度開講科目）2単位

関　一誠

「特論・実習Ⅰ」を踏まえて，競技バドミントン技能の向上，策戦・戦法のたて方等，競技の特性を生かした方法論・実習を行う。

スポーツ特論・実習Ⅰ（バレーボール）（昭和64年度開講科目）2単位

古市　英

競技スポーツとしてのバレーボールと，レクリエーショナルスポーツとしてのバレーボールの違いを基調として，個人技能，及び集団技能を習得することを目標とする。

コ・エド（co-ed）スポーツとしての位置づけについても考えていきたい。

実技だけでなく，文献学習や視聴覚教材の利点を生かした授業をもくろんでいる。

スポーツ特論・実習Ⅱ（バレーボール）（昭和65年度開講科目）2単位

古市　英

競技スポーツの観点からバレーボールをとらえ，好成績を収めるための方策を，実技と理論，及び試合を通して追求する。

スポーツ特論・実習Ⅰ（バスケットボール）（昭和64年度開講科目）2単位

伊藤順蔵

バスケットボールの基礎技術として，ボールハンドリング（パス，ドリブル，ショット，リバウンド）・からだを扱う技術・ディフェンスの技術修得

基礎的プレーとして，1対1の攻防・2対2の攻防・3人の連けいプレーと防御・アウトナンバーの攻防の技術修得と，バスケットボール指導法の研究について学んでいく。

スポーツ特論・実習Ⅱ（バスケットボール）（昭和65年度開講科目）2単位

伊藤順蔵

「スポーツ特論・実習Ⅰ」の実技と理論をマスターの上に，チームディフェンスとチームオフェンスの完成を目標とする。実技は，マンツーマンディフェンスとその攻撃法・ゾーンディフェンスとその攻撃法，プレスディフェンスとその攻撃法・速攻とその防御法を修得する。

あわせて，審判法，技術の段階に応じた指導法・スカウティング・作戦計画などについて学んでいく。

スポーツ特論・実習Ⅰ（ラグビー）（昭和64年度開講科目）２単位　　日比野　　弘

スポーツ特論・実習Ⅱ（ラグビー）（昭和65年度開講科目）２単位　　日比野　　弘

スポーツ特論・実習Ⅰ（サッカー）（昭和64年度開講科目）２単位　　加　藤　　久

スポーツ特論・実習Ⅱ（サッカー）（昭和65年度開講科目）２単位　　加　藤　　久

スポーツ特論・実習Ⅰ（スキー）（昭和64年度開講科目）２単位　　佐　藤　千　春

スキー技術，およびスキー技術に関するいろいろな運動，運動感覚，筋肉感覚，心理的なことまで，科学的に研究することが，この特論の主目的である。しかし，とりあえずこの実習Ⅰにおいては，教職を希望するものに対して，スキー技術，運動特性，環境，歴史，組織，ルールなどの解説，実技の実習を狙いとして授業を進めたい。雪のない季節には，トレーニング理論とその実習を組み入れることを考えたい。

スポーツ特論・実習Ⅱ（スキー）（昭和65年度開講科目）２単位　　佐　藤　千　春

「スポーツ特論・実習Ⅰ」に解説したように，スキー技術，およびスキーに関するいろいろな運動を，スポーツ科学という領域において研究することを目的として，この特論・実習Ⅱの授業を進めていきたい。そのためには，いろいろの創意工夫をしていかなければならないだろう。視野を広くもって考えていきたい。「特論・実習Ⅰ，Ⅱ」ともに，それぞれ分立したものではなく，もとより一つのものを便宜的に二つに分けて実習するに過ぎない。このことも明記しておきたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（スケート）（昭和64年度開講科目）２単位　　伊　藤　順　蔵

基礎技術として，フォアスケーティング，スカーリング，スネーキング，クロッシング，バックスケーティング，ストップ・ターンをマスターするとともに，スピードスケーティング，アイスホッケー，フィギュアの各競技種目の初歩の技術修得

あわせて，スケートの歴史，スケートの手入れ法などスケートの知識を学ぶ。

スポーツ特論・実習Ⅱ（スケート）（昭和65年度開講科目）２単位　　伊　藤　順　蔵

「スポーツ特論・実習Ⅰ」の実技と理論をマスターの上に，スピードスケーティング，アイスホッケー，フィギュアの各競技種目の技術研修に励むとともに，バッジテストなどに挑戦する。

あわせて，競技の見方，カリキュラムなどの指導計画のたて方，指導法・評価法などを学ぶ。

スポーツ史（昭和63年度開講科目）2単位　　寒川恒夫

スポーツ・体育の起源から今日に至る発展史を，未開社会，古代，中世，近世，近代，現代，にわけて講義する。テキストには，岸野雄三（編著）『体育史講義　1984年』（大修館）を使用する。

比較スポーツ論（昭和63年度開講科目）2単位　　古市　英

共産圏諸国（ソ連・中国・東ドイツ等）のスポーツについて，その成立過程（歴史），思想，組織，社会の中での評価等に関して考えることによって，自由圏諸国（日米英韓等）のそれとの相違点，類似点を描き出し，比較研究する。

教科書は，『共産主義国のスポーツ』を使用する予定であるが，詳細については，授業開始時に指示する。

コーチング論（昭和63年度開講科目）2単位　　塚脇伸作

スポーツにおけるコーチングの基礎理論とその応用論について具体例をあげて次のような内容を論じる

1. コーチングシステム
2. 体力と技術
3. 指導者と観察力
4. トレーニング計画とトレーニング管理
5. 勝敗を決定する要因
6. その他，競技力向上に関するコーチングの諸問題

体育測定法・演習（昭和63年度開講科目）2単位　　白鳥金丸
前田勝也
葛西順一

本講座では，身体の計測法（発育の程度や身体の形態の測定），運動能力の測定・評価法（筋力・瞬発力・柔軟性・循環器持久性等）および各種運動動作の分析法等の解説ならびに更に理解を深めるための演習を併行する。

武道概論（昭和63年度開講科目）2単位　　志々田文明

今日，武道という言葉は，一般に柔道や剣道など日本古来の運動文化ないしは運動技術を表わす総合名称として用いられているが，このような用法は明治時代の末以降のことである。江戸時代には武道は武士道ないしは士道と同意語に使われていた。この講義では，武道を考察する際の原点としてそれら用法の変遷をみながら，剣道を中心とした各種の武道の史的概観をしたい。

〔参考書〕：今村嘉雄著『日本体育史』（不味(まい)堂）

ダンス概論（昭和63年度開講科目）2単位　　山本数子

舞踊の歴史を通して技術と表現。形式と内容及び構造。舞踊と音楽等の知識を深め，ダンスについて理解と興味を持ってほしい。

教科書は使用しません。

原書講読演習Ⅰ　2単位　　寒川恒夫

「スポーツ史」をテーマとした演習をおこなう。スポーツは，古典ラテン語の deportare（「気晴らしをする」，「遊ぶ」）を祖語とし，古代フランス語の deporter, desporter を経由して，15～16世紀のイギリスにおいて今日の語形 sport を成したが，今日周知の「運動競技」を意味の第1位に据えたのは，遅れて19世紀後半のことであった。本演習では，スポーツの概念史上の最後期，いわゆる近代スポーツの段階をとりあげ，その成立過程を具体的にいくつかの競技種目について，外国語諸文献の講読を通して学習する。テキストはそのつど指示する。

原書講読演習Ⅰ　2単位　　村岡　功

本演習ではスポーツ生理学あるいは運動生理学に関する専門書を輪読しながら授業を進める。

従って，この授業では単なる語学的な理解にとどまらず，スポーツおよび運動を生理学的側面から捉え，スポーツ科学に対する理解を深めていただきたい。

原書講読演習Ⅰ　2単位　　宮内孝知

本演習は，スポーツの社会学的な理解を，英文を通して身につけることをねらいとする。

しかしながら，現在のところ，Sport Sociology ないしは Social Aspects of Sport そのものを論じた著作はみられないようである。そのようなタイトルであるとしても，多くは「論文集」である。従って，本演習では，それらの論文集の中から，上記のねらいにそった論文を選び，精読しながら理解を深めていくことになろう。

原書講読演習Ⅰ　2単位　　濱野吉生

この演習は，英米の原書講読を通じて，近代スポーツがいつ頃，誰によって担われ，どのように発展してきたか，またその本質・原理は何か，を理解することを目的として進めていく。

テキストについては，授業中に指示する。

原書講読演習Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　梅　澤　宣　雄

主として，北米及び英国のスポーツ経営学に関する文献を取り上げ，講読する。

原書講読演習Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　中　原　英　臣

スポーツは今や科学の対象とされ，極めて合理的に解析されている。残念ながら，スポーツ科学の分野では日本は国際的には一歩も二歩も遅れているのが現況である。

このような情勢下では，我々は素直な態度で諸外国のスポーツ科学を吸収しなくてはなるまい。そのためには原書講読は不可欠であるわけだから，そのような視点に立った演習を行う。

原書講読演習Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　比　企　静　雄

専門教育科目の「スポーツ工学Ⅱ」の内容の拡張として，サイバネティクス的な観点からの人間における感覚と制御についての代表的な論文を，国際的な英文の学術誌などの出版物から選んで，その記述を詳細に分析したうえで，それに含まれる研究の問題点や解決法などを討議する。

原書講読演習Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　古　市　　英

政治体制の違いが，それぞれの国のスポーツを違った形に浮きぼりしている。換言すれば，政治が，スポーツに大きな影響力を及ぼしている今日，スポーツの本質は何か，あるいは，時代の変化に伴ってスポーツは，どう分類されたらよいのか，を考えながら，特定国の体育・スポーツについて探究する。

政治体制の異なる特定二国間の体育やスポーツを比較することによって，両者の特長を把握し，将来の姿を探る。

専門教育科目（各学科共通　選択）

哲学的人間学Ⅰ（昭和63年度開講科目）2単位　　北村　實

「人間」は生物の一種であるが，しかし他の生物とは質的に異なる特質を持っている。「人類学」が動物学の一分科として人間を研究していくのに対して，それだけではとらえきれない「人間」の特質を総合的に考察していくのが「哲学的人間学」である。講義では，広い視点から「人間」を見つめ直し，「人間」とは何か，という古くて新しい問への私なりの答えを出してみたい。

哲学的人間学Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　北村　實

「人間」についての哲学的考察はほとんどすべての哲学に含まれているが，しかしそれが「哲学的人間学」と銘打たれて登場したのは1920年代のドイツにおいてであった。それは M. Scheler, Plessner から始まって，Gehlen, Landmann に受け継がれていったとされているが，講義では，この「哲学的人間学」の検討を行う。

言語・記号論（昭和63年度開講科目）2単位　　遠藤　弘

言語に関する，あるいは記号一般に関する学際的な研究は今日ますます盛んになりつつある。それというのも，「人間は記号である。」と解することの可能性が一層現実的なものとなってきているからである。本講は哲学的な視座から記号現象一般の人間的な意味を解明するとともに，とりわけ言語の本質に探りを入れることを目的とする。基本的な資料をプリントにして配布し，できるだけ日常的な事例に沿って話を進めて行くことにする。

民族文化論（昭和63年度開講科目）2単位　　吉村作治

民族には独自の文化が存在しているが，その文化は必ずしも独特なものだけではなく，他の民族との交流によってお互いに影響し合っている。本講座は，まず民族とは何かを，歴史的に検証し，部族・人種・民族の相関関係を考えた後，アラブ民族とユダヤ民族の相克を文化的な面を中心に考察してみたい。両民族の生いたちから，現在尚，両民族間に争乱状態を作りあげているものは，政治的な確執だけではないことを前提に考えていく。

認知理論（昭和63年度開講科目）2単位　　西本武彦

認知については，心理学の極めてコンテンポラリーな分野として，近年注目を浴びているが，ともすると抽象的で難解と思われがちである。本講ではできるだけ具体的実例や簡単な実験をまじえながら，知覚・学習・記憶・思考・言語といった各分野を統一的に説明

する枠組みとしての認知的アプローチの今日的意義を紹介していきたい。テキストについては講義の中で指示する。出席厳守。

人格心理学（昭和63年度開講科目）2単位　　冨田正利

人格（Personality）とは人間を個人として総合的に捉える概念であり，気質，性格，知能といった個人のすべての特性を包括する概念である。その研究は近代心理学の成立の遥か以前から関心を持たれてきたし，現代に於ても心理学の究極の目標として追求する研究者も多い。本講ではそうした研究の歴史を振り返り，近代心理学における人格研究の多様な展開の跡をたどり，現代における諸理論を概観して，人格研究のあり方を探りたい。

教育心理学Ⅰ（昭和63年度開講科目）2単位　　佐々木正人

発達，学習理論，教授・学習，人格と適応，教育評価等，教育心理学を構成する基本的な領域について講義する。

運動心理学（昭和63年度開講科目）2単位　　児玉昌久

新しい運動を覚えたり，すでに覚えている運動の技術を高めようとする時，多くの要因がある原則に従って作用しあう。それら種々の要因や法則のうち心理学的な問題をとりあげて解明し応用してゆくのが運動心理学の目的である。運動技術獲得のメカニズムや法則性，技術向上を促進したり妨害する心理的要因や動機の問題，獲得した技術の十分な発揮を援けたり妨げたりするメンタル諸問題についての基礎的な面を述べる。

社会心理学（昭和63年度開講科目）2単位　　斉藤勇

社会心理学の基礎的知識と基本的考え方について，講義する。講義内容は次の通りであるが，社会心理学の実験的アプローチを中心に紹介していく。

- 社会的認知
- 社会的態度
- 社会的欲求
- 社会的行動
- グループ・ダイナミックス

実際の実験や調査も可能な限り実施する予定である。

保健社会学（昭和63年度開講科目）2単位　　佐久間淳

はじめに現代社会の生活諸相の特徴にふれ，健康および疾病（成人病など）の要因を説明する。そして日本人の健康や傷病に対する意識や行動，問題点について文化人類学，行動科学，統計的手法等による解析法を示す。

また，都市と農村，家族，職業，階層などと有病・受療率，死亡率，平均寿命，人口高

齢化など現実の問題に対する理解を深め，その対策を考究する。テキストは自著『医療社会学概説』（仮題）（大修館）を予定

人間工学Ⅰ（昭和63年度開講科目）2単位　　石田敏郎

人間工学の基本的な考え方と，人間工学を理解するために必要な基礎的事実について，具体的な実験例をもとに概説する。

また，人間工学は学際的な学問であり，最近の進歩も著しいので，そうした話題にもふれる。

脳神経科学（昭和63年度開講科目）2単位　　濱　清

脳神経科学概論

① 興奮の伝導および伝達と神経細胞の構造

② 神経細胞レベル，中枢レベルにおける情報処理の構造的基礎

の概説を行う。

〔教科書〕：

Principle of Neural Science, Kandel and Schwartz, Elsevier Co.

Introduction to Nervous System, Bullock, Freeman Co.

From Neuron to Brain, Kuffler and Nicholls, Sinauer Co.

精神医学Ⅰ（昭和63年度開講科目）2単位　　中村陸郎

精神医学は，精神面の異常を呈する疾患，即ち精神障害（精神的疾患）を対象とする医学の重要な一分科である。本講義では，精神医学の歴史，精神医学における諸分野と，諸理論，精神症状にはどの様なものがあるか，精神症状と脳の機能との関連性，各種の代表的な精神障害（概念，成因，症状，経過，治療など），我が国の精神科医療の現状と問題点などについて講述を行う。

精神医学Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　濱田秀伯

狂気の歴史をたどることは，人間の歴史をたどることにほかならない。本講座では紀元前から現代に至る精神医学の流れを概観し，精神障害の形態，症状，考え方を示しながら，人間が心の病とどのように関ってきたのかを述べる。特に19世紀ヨーロッパに始まる近代精神医学が，機械・還元論的な自然科学の思潮に対抗し，人間を不可分な全体として把える見地から成立した過程を，生物学，心理学，社会学，哲学などとの関連において論じる。

精神衛生概論（昭和63年度開講科目）2単位　　山崎勝男

精神衛生とは，「心の健康」の維持と向上，および「心の不健康」の治療と予防に関す

る複合科学である。今日の加速度社会のどの側面を取り上げても，人間の心に大きな影響を及ぼさないものはない。ここでは，ストレス病や神経症などを中心テーマに選び，発症のメカニズムを考察することから，その防止策に視点をあて，いかにして「心の健康」を獲得するかを考えてみる。

精神身体医学Ⅰ（ストレスと生体反応）（昭和63年度開講科目）2単位

飯　島　　登

精神的，肉体的ストレスを受けた生体の細胞レベルにおける初期反応は，エネルギー産生能の増大によって細胞機能を維持しようとする防衛反応を示す。これは先端科学の一部とし脳・腺（ホルモン）・免疫のネット・ワークとして研究されている。ストレスを内部情報（遺伝）に対する外部情報とすれば，その引き金としての神経内分泌系が重要である。情報の整理と情緒の場としての大脳辺縁系（主として海馬）に焦点を当て，脳ホルモンの最近の進歩を窺いつつストレスの生体反応を解説し度い。

栄　養　学　Ⅰ（昭和63年度開講科目）2単位　　太　田　冨貴雄

体格も良く，健やかで体力にも恵まれ活発な一生を送ることは，多くの人の願いであろう。体格を造る材料を提供し，生命維持に不可欠な生理作用の調整を行い，活動のためのエネルギーを供給するのが食物である。栄養学は食物と発育・健康・疾病との関係を究め，健康増進に役立つ食生活の指針をつくることを目的としている。本講義では，人間が必要とする食物成分（栄養素）の種類と生理的役割，至適摂取量，各種食品の栄養的特徴など栄養学の基本的事項について述べる。

スポーツ医学Ⅰ（昭和63年度開講科目）2単位　　福　林　　徹

スポーツ障害とスポーツ外傷を部位別に，また競技別に実例を掲示しながら紹介する。さらにこれらと関連した筋生理や，解部などの基礎的な部門も平行してとり扱ってゆきたい。またスポーツとその安全対策・障害予防という面から，トレーニングや栄養，食事といった面についても言及してゆく。

スポーツ医学Ⅱ（昭和63年度開講科目）2単位　　飯　島　　登

スポーツは健康や疾病の予防に有用であるのみでなく，食事療法，薬物療法と共に運動療法として医療に確固たる位置を占めつつある。しかし運動過剰や身体状況によっては逆効果を示し，ここにメデイカル・チェックの必要性が改めて認識されつつある。運動が生体にいかなるかかりあいがあるかを科学的に平易に解説し，特に心臓疾患・高血圧・糖尿病・腰痛などと運動との関係をスポーツ障碍と共に具体的に説明する。

救急処置法（昭和63年度開講科目）2単位　　徳川英雄

人が人の手助けを必要としている危急状態にある時，初療こそがもっとも大切であることは論を待たない。時間との戦いである初療に逸早く参加できる人は，たまたま現場近くに居合わせた人である。この意味では，国民の一人一人が最低限の救急法を身に付けており，憶することなく応用できるレベルにあることが理想である。救急法，すなわち Life Support を basic L. S. と advanced L. S. の両面から解説するが，救急法の実践者，指導者として身に付けていただきたい。

物療医学（昭和63年度開講科目）2単位　　福林　徹

現在病院や諸施設で行われている一般的なリハビリテーション医学について，運動療法，温熱療法，装具療法などにわけて具体的に解説してゆく。また特にスポーツ選手に対しての疾患別運動療法や，各種テーピング法とその意義，トレーナーやコーチの役割についても言及したい。

労働衛生概論（昭和63年度開講科目）2単位　　中原英臣

一口に労働衛生といっても，歴史的には日本の産業構造の変化とともに大きく変ってきた。

古くは炭鉱での塵肺症，林業での白ろう病，印刷業での鉛中毒等の職業病があり，今日では職場でのストレスやワープロでの視力障害等が問題となっている。こうした歴史的背景をふまえて講義を行う。

看護法（昭和63年度開講科目）2単位　　徳川英雄

看護術，あるいは看護法というものは，実は，人類が生れた時から存在していたものに相違ない。正確に言うと人が病いや悩みを持った時に生れているはずのものである。そして人類が「最大の悩みである死」と対面し続ける限り存在するものであろう。社会が発展し，看護も看護法となり，看護学となってきた。この過程を解説しながら，近代医学の一翼を担なっている看護は，今や臨床医学のみならず，社会学，心理学，哲学，宗教学などをとり入れたものでなければならないことを強調したい。

運動処方論（昭和63年度開講科目）2単位　　永田　晟

トレーニングと運動処方の違いを明確にして，それらの基礎的な生理科学と資料を提示する。そして人間改造の可能性を探り，健康と体力の保持増進の道標や指標を具体化する。

運動処方上，必須な①運動内容（種類）②運動強度　③運動強度の論理を教示し，ヒトのレベルに対応した個別的な処方箋作りの方法論を展開する。特に，一般人の健康体力

のための処方が組み立てられ，“健康・体力相談士”としての能力が得られるように詳講し配慮する。

地域体育論（昭和63年度開講科目）2単位　　濱野吉生

地域社会における体育・スポーツの進め方，その法的根拠，歴史と現状などについて，諸外国の例も交えながら述べていくが，なおその他にスポーツそのものについても，かなりのウェイトを置いて言及する予定である。

参考書等については，授業中に指示する。

職場体育論（昭和63年度開講科目）2単位　　前田勝也

職場体育といっても，一般にはあまり聞きなれない言葉かもしれない。総括的に考えれば，レクリエーションということになろうが，ここでは，仕事を持つ人々の職場における状況を，人間に加わる負担という形でとらえ，それらからの人間への影響，さらにその影響に対応する意味でのレクリエーションの問題について考察を進める。

昭和62年度　クラス担任者一覧

第 1 学 年

クラス	担任者	クラス	担当者
A 1	吉村作治	B 4	臼井恒夫
A 2	寒川恒夫	B 5	鈴木晶夫
A 3	三枝幸夫	B 6	志々田文明
A 4	上田雅夫	C 1	石田敏郎
A 5	神崎　巌	C 2	山内兄人
A 6	堀田郷弘	C 3	根建金男
A 7	坂野雄二	C 4	永田　晟
B 1	濱野吉生	C 5	比企静雄
B 2	宮内孝知	C 6	青柳　肇
B 3	谷川章雄	C 7	佐々木正人

教　員　一　覧

※印は，63年度以降の就任予定者

専任教員（五十音順）

氏　　名	主な担当科目
青柳　　肇	演習Ⅱ（達成動機づけ）
浅井邦二	心理学概論
※飯野徹雄	遺伝学及び実習
池岡義孝	家族社会学及び実習
石田敏郎	情報処理（コンピュータ基礎・実習）
伊藤順蔵	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（バスケットボール）
上田雅夫	スポーツ心理学
臼井恒夫	都市社会学及び実習
※梅澤宣雄	スポーツ経営学Ⅰ，Ⅱ
大島康行	生態系科学
太田　　章	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（レスリング）
※太田冨貴雄	栄養学Ⅰ，Ⅱ
岡野静二	福祉援助論
柿崎京一	地域社会学及び実習
葛西順一	体育測定法・演習
加藤清忠	身体形態学（解剖学を含む）
加藤　　久	スポーツ方法論・実習（球技Ⅱ　サッカー）
神崎　　巌	独語
菅野　　純	学校カウンセリング
木村一郎	細胞学及び実習
木村利人	バイオエシックス（自然・生命・人間の秩序）
窪田　　登	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（ウエイトトレーニング）
蔵持不三也	比較文化論
※黒田　　勲	行動医学Ⅰ，Ⅱ
※小泉英二	演習Ⅰ（学校カウンセリング――初等・中等教育とカウンセリング――）
児玉昌久	運動心理学
三枝幸夫	英語
坂野雄二	行動療法Ⅰ，Ⅱ

嵯峨座　晴　夫	社会変動論
佐　古　順　彦	環境心理学Ⅱ
佐々木　正　人	認知発達理論
佐　藤　千　春	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（スキー）
重　原　淳　郎	独語
志々田　文　明	武道概論
鈴　木　秀　次	バイオメカニックスⅠ
鈴　木　晶　夫	非言語行動論
寒　川　恒　夫	スポーツ文化論
相　馬　一　郎	環境心理学Ⅰ
田　中　純　蔵	英語
店　田　廣　文	社会開発論
谷　川　章　雄	日本文化史
チャールズ・W・ゲイ	英語
塚　脇　伸　作	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（体操競技）
永　田　　晟	バイオメカニックスⅡ
根　建　金　男	行動理論
野　嶋　栄一郎	教育心理学Ⅱ
野　呂　影　勇	人間工学Ⅱ
※濱　　清	脳神経科学及び実習
濱　口　晴　彦	社会学理論史
濱　野　吉　生	地域体育論
春　木　　豊	行動学
比　企　静　雄	リハビリテーション
古　市　　英	比較スポーツ論
堀　田　郷　弘	仏語
※町　田　和　彦	公衆衛生学Ⅰ，Ⅱ
宮　内　孝　知	スポーツ社会学
宮　崎　正　己	運動・保健概論
村　岡　　功	運動生理学
門　前　　進	心理療法Ⅰ，Ⅱ
矢　野　敬　生	社会集団論
山　崎　勝　男	精神生理学及び実習
山　内　兄　人	比較形態学
吉　岡　　亨	生理学及び実習
吉　村　作　治	比較文明論

吉村　正	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（ソフトボール）

兼担教員（五十音順）

氏名	本属箇所	担当科目
東　清和	教育学部	人間発達の心理学
阿部　馨	教育学部	スポーツ特論・実習Ⅰ（陸上競技） スポーツ特論・実習Ⅱ（陸上競技）
安藤宏三	体育局	スポーツ方法論・実習（格技）剣道 スポーツ特論・実習Ⅰ（剣道） スポーツ特論・実習Ⅱ（剣道）
池原義郎	理工学部	スポーツ工学Ⅰ
石垣春夫	教育学部	基礎数学
石渡信一	理工学部	物理学
岩本憲児	文学部	映像論
宇佐美昭次	理工学部	化学
遠藤　弘	文学部	言語・記号論
大井邦雄	文学部	英語Ⅱ
大沢慶己	体育局	スポーツ特論・実習Ⅰ（柔道） スポーツ特論・実習Ⅱ（柔道）
岡田浩平	教育学部	独語Ⅱ
興津　要	教育学部	文学
奥島孝康	法学部	法学
長田攻一	文学部	余暇論
小野沢弘史	体育局	スポーツ方法論・実習（格技）柔道
角山元保	教育学部	仏語Ⅱ
北村　實	文学部	社会意識論 哲学的人間学Ⅰ 哲学的人間学Ⅱ
小山宙丸	文学部	宗教学
桜井英博	教育学部	化学
佐藤　巌	教育学部	独語Ⅱ
白鳥金丸	体育局	体育測定法・演習 スポーツ特論・実習Ⅰ（ボクシング） スポーツ特論・実習Ⅱ（ボクシング）
新保昇一	文学部	英語Ⅰ，英語Ⅱ
鈴木慎一	教育学部	教育学
鈴木英雄	理工学部	物理学
鈴木三喜男	政治経済学部	英語Ⅱ

関　一誠	体育局	スポーツ特論・実習Ⅰ（バドミントン） スポーツ特論・実習Ⅱ（バドミントン）
田辺洋二	教育学部	英語Ⅱ
角田真一郎	体育局	スポーツ方法論・実習（レクリエーション）
外木典夫	文学部	特論Ⅱ
冨田正利	文学部	心理検査法Ⅰ 心理検査法Ⅱ 人格心理学
富永　厚	文学部	倫理学
中村　茂	体育局	スポーツ方法論・実習（体操）体操Ⅰ
西大立目　永	体育局	スポーツ特論・実習Ⅰ（野球） スポーツ特論・実習Ⅱ（野球） 保健体育科目実技（軟式野球）
西本武彦	文学部	認知理論
野中　涼	文学部	英語Ⅱ
野村圭介	商学部	仏語Ⅱ
橋本仁司	教育学部	組織心理学
速川治郎	社会科学部	哲学
林　敏弘	体育局	スポーツ特論・実習Ⅰ（軟式テニス） スポーツ特論・実習Ⅱ（軟式テニス）
日比野　弘	体育局	スポーツ方法論・実習（球技Ⅱ）ラグビー スポーツ特論・実習Ⅰ（ラグビー） スポーツ特論・実習Ⅱ（ラグビー） 保健体育科目実技（ラグビー）
船戸徳郎	体育局	スポーツ方法論・実習（体操）体操Ⅱ
古沢謙次	教育学部	独語Ⅱ
本戸啓嗣	社会科学部	英語Ⅱ
前田勝也	体育局	体育測定法・演習 職場体育論 保健体育科目講義（体育と生活）
宮城　淳	体育局	スポーツ特論・実習Ⅰ（テニス） スポーツ特論・実習Ⅱ（テニス） 保健体育科目実技（テニス）
森　武	体育局	スポーツ特論・実習Ⅰ（卓球） スポーツ特論・実習Ⅱ（卓球）
森　祐子	文学部	独語Ⅱ
矢島忠明	体育局	スポーツ方法論・実習(球技Ⅰ)バレーボール
矢野正次	体育局	スポーツ特論・実習Ⅰ（水泳） スポーツ特論・実習Ⅱ（水泳） 保健体育科目実技（水泳）

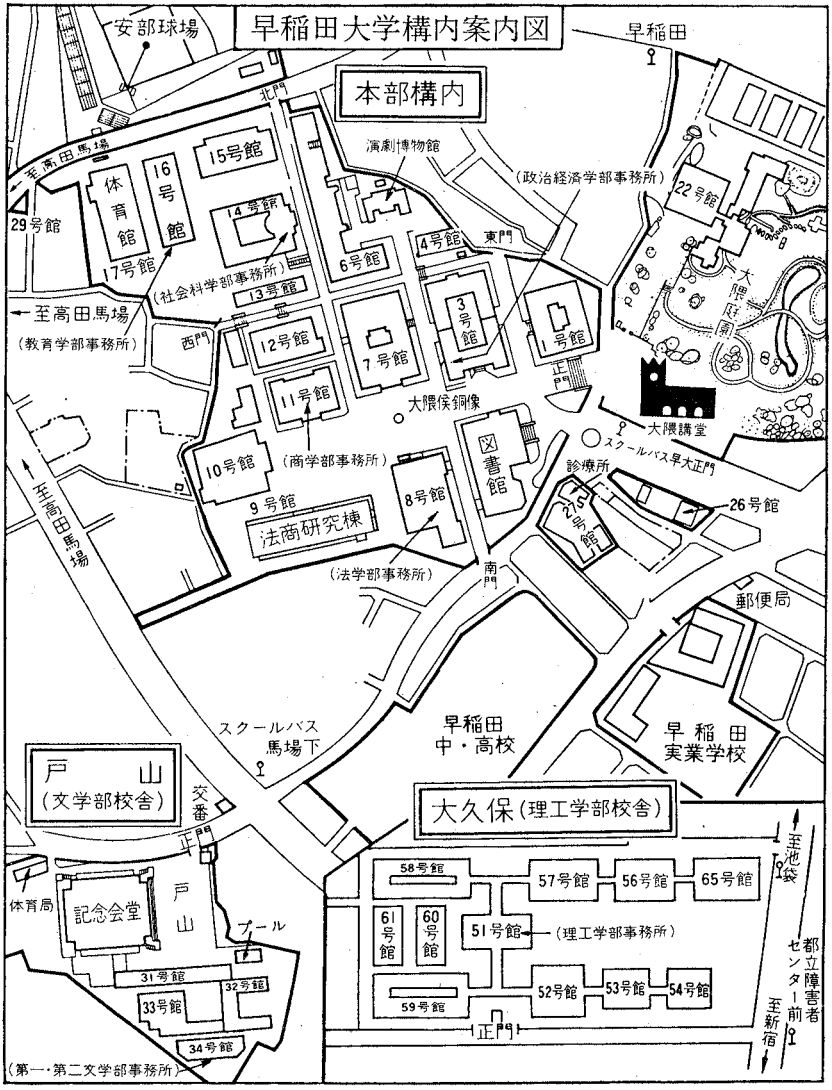
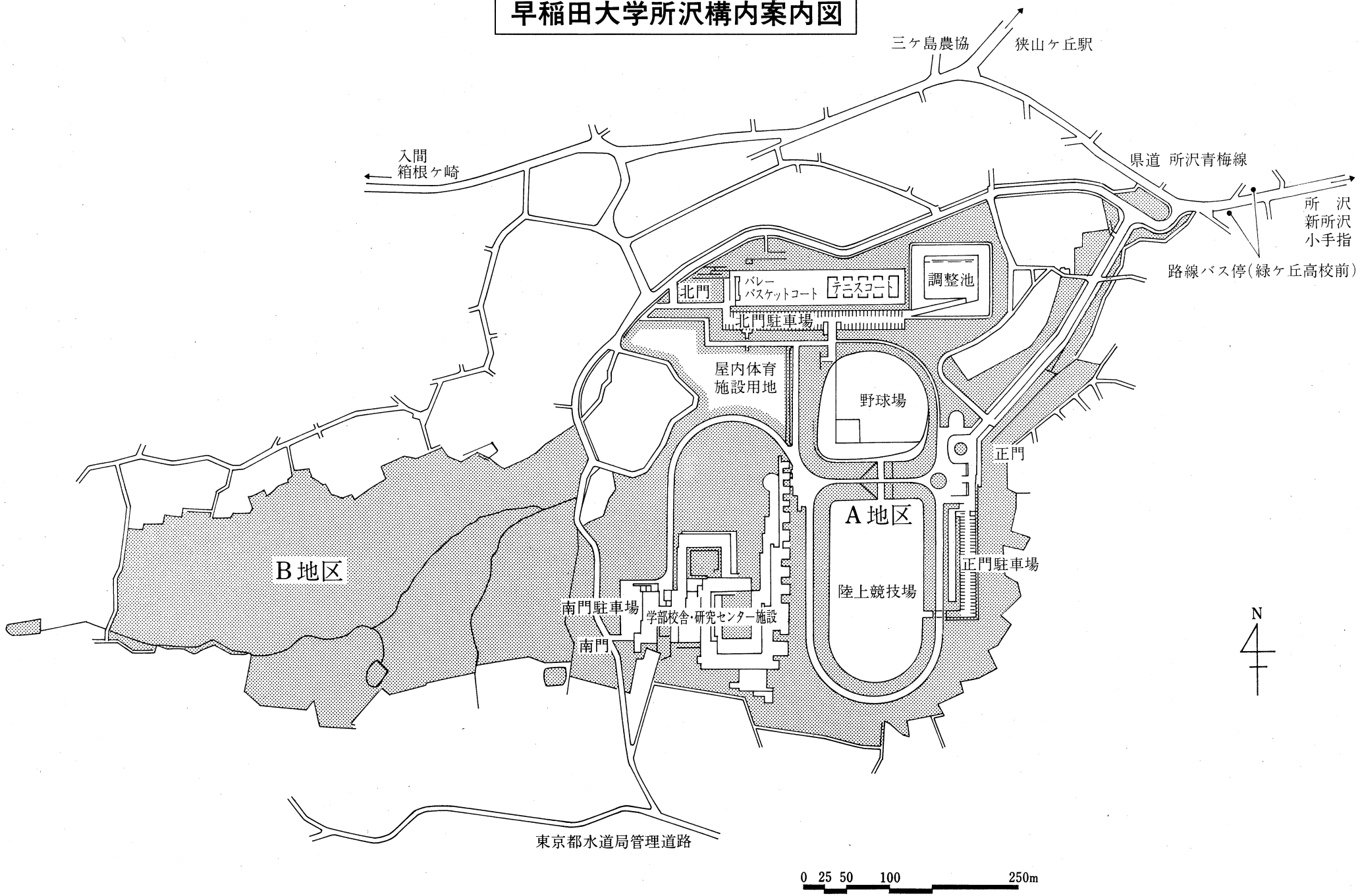
非常勤教員（五十音順）

氏　　名	担当科目
青木　清	バイオエシックス 比較行動学
安藤喜久雄	人間関係論Ⅰ 産業・職業社会学
飯島　登	精神身体医学Ⅰ（ストレスと生体反応） スポーツ医学Ⅱ
五三　健	スポーツ方法論・実習（球技Ⅰ）バスケットボール
今橋盛勝	教育法
大池美智子	音楽理論・実習
小野　魁	特論Ⅰ
北原　隆	人類学 自然人類学
児玉幹夫	社会福祉論Ⅰ 社会福祉論Ⅱ
斉藤　勇	人間関係論Ⅱ 社会心理学
坂口早苗	学校保健Ⅰ 学校保健Ⅱ
佐久間　淳	保健社会学
千石　保	社会調査 社会調査・実習
中条一雄	スポーツ情報論
徳川英雄	救急処置法 看護法
中原英臣	原書講読演習Ⅱ 衛生学 労働衛生概論
中村陸郎	精神身体医学Ⅱ 精神医学Ⅰ
野池恵子	仏語Ⅰ，仏語Ⅱ
濱田秀伯	精神医学Ⅱ
ヒュー・D・ターナー	英語Ⅰ
深川長郎	スポーツ行政論
福林　徹	スポーツ医学Ⅰ 物療医学
牧　幸一	独語Ⅱ
宮本美沙子	動機づけ理論
山本数子	スポーツ方法論・実習（ダンス） スポーツ特論・実習Ⅰ（ダンス） スポーツ特論・実習Ⅱ（ダンス） ダンス概論

リチャード・L・スピア	英語Ⅰ
ルイス・リーバイ	英語Ⅰ
ロジャー・N・ジェフリース	英語Ⅰ，英語

建物・号館案内

100号館	8階	研究室（一般教育・外国語・助手）	
	7階	研究室（スポーツ科学科）	
	6階	研究室（人間健康科学科）　人間総合研究センター所長室 実験室（人間健康科学科・人間総合研究センター） 会議室	
	5階	研究室（人間基礎科学科・スポーツ科学科・助手）　会議室 実験室（人間基礎科学科・人間健康科学科・スポーツ科学科） 学生実習室　面接室　観察室　暗室　測定機室	
	4階	学部事務所　学部長室　教務主任・副主任室　会議室 所沢図書館・事務室　保健室　教職員食堂 研究室（スポーツ科学科）　実験室（スポーツ科学科）　学生実習室	
	3階	演習室　埋蔵文化財展示室・整理室　学生ラウンジ 学生共同利用室　コピー室　学生食堂　売店 情科センター分室事務室　端末室　労務員・清掃員室	
	2階	60人教室　350人教室　700人教室　演習室　視聴覚教室　ＬＬ教室	
	1階	60人教室　140人教室　200人教室　学生ラウンジ エレベーター	地下１階 守衛室


早稲田大学構内案内図
本部構内
安部球場
早稲田
北門
至高田馬場
15号館
16号館
体育館
17号館
29号館
14号館
(社会科学部事務所)
13号館
6号館
演劇博物館
(政治経済学部事務所)
4号館
東門
22号館
大隈庭園
3号館
1号館
正門
7号館
12号館
11号館
西門
(教育学部事務所)
大隈侯銅像
大隈講堂
スクールバス早大正門
診療所
10号館
(商学部事務所)
図書館
9号館
8号館
法商研究棟
(法学部事務所)
25号館
26号館
南門
郵便局
至高田馬場
スクールバス
馬場下
早稲田
中・高校
早稲田
実業学校
戸山
(文学部校舎)
交番
正門
大久保(理工学部校舎)
至池袋
58号館
57号館
56号館
65号館
61号館
60号館
51号館
(理工学部事務所)
52号館
53号館
54号館
59号館
正門
都立障害者センター前
至新宿
体育局
記念会堂
戸山
プール
31号館
32号館
33号館
34号館
(第一・第二文学部事務所)

早稲田大学所沢構内案内図